

平成28（2016）年度  
自己点検・評価報告書  
（抜 粋）

鎌倉女子大学 中等部・高等部

## 第1章 中等部 自己点検・評価

### 1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置者の示す明確な教育方針（建学の精神）等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神に基づく豊かな人間性の育成を基盤として、新たな教育目標である「自己の感性や価値を高め続け社会で活躍できる女性の育成」について、各分掌、各学年、各教科が有機的に連携しながら、取り組みを進める。</li> <li>・教育目標実現のための3つの力「実践力・思考力・共生力」を授業、学校行事等、教職員が日々行う教育活動のなかに明確に位置付け、絶えず意識できるようにしていく。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標と3つの力については、平成27（2015）年度から学校説明会や学校案内パンフレットなどに建学の精神と併せて明確に位置付けたこともあり、学年の校外行事などで取組目標にするなど、教員生徒双方に浸透を図ることができている。</li> <li>・年度途中からは、初等・中等接続教育担当との連携のもとで、次年度に向けて「豊かな人間性」「確かな学力」「英語教育」の3本柱を新たに位置付け、教育目標と共にその実現に向けた取り組みを進めることができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神は「豊かな人間性」の育成に欠かせないものであり、一方、「確かな学力」「英語教育」は、「自己の感性や価値を高め続ける」ことにつながるものである。ICT、英語、コミュニケーション等のスキルの育成等により、魅力ある学校づくり、受験生に選んでもらえる学校づくりを進める。</li> </ul>

1-②	・学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。
取組目標	<p>①「スチューデント・ファースト」の視点に立った学校運営の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慣習的な活動を批判的に洗い直し、意味のない前例踏襲を徹底的に排除する。</li> <li>・生徒の社会的な自立を促すため、経験や失敗から学ぶ機会を多く設定する。</li> </ul> <p>②学力向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務主任、進路指導主任、スーパーバイザー等で構成する横断的組織「学力向上対策特別委員会」を新たに設置し、各教科、各学年、進学コース、特進コースにおける学力向上の取り組みを一元的に統括する。</li> </ul> <p>③生徒主体型学習への転換に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のモチベーションの向上、活動の活性化が募集状況に直結するという考えのもと、授業、校外学習、行事等あらゆる場面で生徒主体型学習を導入する。</li> </ul> <p>④生徒募集の強化に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塾訪問、中学校訪問の体制、学校説明会の内容を不断に見直し、受験生やその保護者の視点を大切にするとともに、あらゆる機会を通じて本校の新たな教育活動の成果や魅力を強力に発信する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日に部長から全職員に提示する「取組方針」のなかで4つの短期目標を設定した。</li> <li>・「前例踏襲の徹底的な見直し」に関しては、継続的に取り組んできたこともあり、職員の意識改革が進み、意欲的な雰囲気がうかがえるようになった。</li> <li>・学力向上対策特別委員会の設置により、前年度設置した学習支援センターとの連携強化、これまで各部署が個別に実施していた長期休業中の講習の一元化、各教科における日常課題の内容精査、課題提出の状況調査など、生徒の現状に即した取り組みを進めることができた。</li> <li>・生徒主体型学習に関しては、外部に対しても導入をはっきりと打ち出したことにより、教員生徒双方に意識化が進み、従来見られたような講義形式一辺倒による授業は影を潜めている。また、平成28（2016）年度にスタートした起業家教育プログラム「Kamakura Beyond Project」においては、導入主体となる中等部3年生が大変意欲的であり、外部からの取材も受けている。</li> <li>・新たに設置された初等・中等接続教育担当との連携のもとで、次年度に向けた新しい教育の3本柱の策定、本校独自の英語教育プログラム「鎌倉FITS」の開発を行うとともに、それらをまとめたリーフレットを発行し周知するなど、年度途中から広報活動の強化を図った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上対策特別委員会の取り組みなどにより、学力の中位下位層の生徒の姿勢に大きな改善がみられるようになったが、一方で、上位層の生徒を必ずしも伸ばし切れていない面もみられ、次年度以降、更なる取り組みを検討していく。</li> <li>・生徒主体型学習に関しては、教科の特性や教員の力量差などの課題もあり、今後、研修の充実による教員個々の授業力改善に重点的に取り組んでいく。</li> <li>・生徒募集に関しては、当初大変厳しい状況が予想されたが、前年度並みの人数を確保した。しかしながら、学則定員を常に意識し、より目標を高くもって、学校一丸となって取り組みを進めることが不可欠であると認識している。その</li> </ul>

	ためにも、初等・中等接続教育担当との連携のもと、更なる対策を講じていく。
--	--------------------------------------

## 2. 教育課程

2-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「チェンジ・チャレンジ」を合い言葉に、「自己の感性や価値を高め続け社会で活躍できる女性を育てる」という目標のもと、実践力・思考力・共生力を身に付けるための、生徒主体型学習に取り組む。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動全般において、各教員が「実践力」「思考力」「共生力」を高めるよう意識するようになった。</li> <li>体育祭や文化祭（みどり祭）などの学校行事において、実行委員が中心となって活躍する機会が増え、生徒の主体性が育まれてきた。</li> <li>校外行事では現地集合を基本とし、生徒自ら行き方を調べ行動できるようになった。</li> <li>これまで受け身姿勢であった生徒が、少しずつではあるが能動的に行動できるように変化してきた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>依然として生徒に教え込む教員が見られるため、コーチングなどの手法を各教員が身に付けて指導にあたる。</li> <li>生徒自らが考えて行動できるようにするために、教員の固定された考え方から脱却をはかり、指導方法の工夫・改善を進めていく。</li> <li>教員のスキル向上に向けた、研修会の充実を図る。</li> </ul>

2-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の実施に必要な、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業担当者は、4月初旬までに年間学習指導計画書を作成して教科主任に提出し、スーパーバイザー、次長、部長の点検を受ける。</li> <li>・各学年では、4月初旬に道徳や総合的な学習の時間、ロングホームルームの年間計画を立てる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間学習指導計画表は、全教科全教員が作成した。</li> <li>・年間学習指導計画書は、各学期終了時に「自己評価」や「今後の課題と対策」を記入して提出することで、授業改善に努めた。</li> <li>・ロングホームルームや総合的な学習の時間については、現状の行事に向けた準備が中心になり、十分な計画案が作成できていなかった。</li> <li>・道徳は、入学座禅、立居振舞講座なども、年間計画に盛り込んで実施した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の授業計画については、授業担当者による計画変更が生じないようにする。</li> <li>・ロングホームルームや総合的な学習の時間については、行事の準備にとどまらず、生徒の主体性を伸ばす取り組みとして計画をしていく。</li> </ul>

2-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語、社会、数学、理科、英語の授業時間数を文部科学省の標準時間より充実させて、基礎学力の向上を図る。</li> <li>・ 管理職やスーパーバイザーによる授業参観や教員同士の相互参観を行う。</li> <li>・ 付属校サミットにて、他校の教員も交えて公開授業と授業研究会を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文部科学省の標準時間と比較して、国語で約1.6倍、数学で約1.4倍、英語で約1.6倍、理科で約1.1倍、社会で1.2倍の授業時間数を設定している。</li> <li>・ 公開授業週間を設け、教員同士の相互参観を促進した。また、保護者対象の授業参観（学校開放デー）や受験生対象の授業体験も行った。</li> <li>・ 付属校サミットでは、8つの公開授業を実施し、他校の教員も交えての授業研究会を行った。その内容を報告集にまとめた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験活動などの校外学習や学校行事も重視しているため、授業時間数が文部科学省の標準時間よりは上回っているものの、本校独自の計画における授業時間数の確保には至っていない。</li> <li>・ 今後、授業確保の面から、①慣例的に行われていた中等部入試第一日目、二日目の自宅学習を授業に変更、②体育祭予行練習を短縮し、授業を設定、③合唱コンクール当日の朝、授業を設定、④3学期始業式に授業を設定、⑤みどり祭準備期間を短縮し、授業を設定などの取り組みを通して、授業時間数の最大限の確保に努める。</li> </ul>

2-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年やコース、各教科など生徒個々の学習状況にかんがみ、適切な評価基準を設定する。</li> <li>客観性と公平性を十分に担保した上で、評価する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語以外の教科は「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の4観点で行った。</li> <li>国語においては、「関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「知識・理解・技能」の5観点で行った。</li> <li>各教科とも、観点ごとに5段階評価を行い、それに基づき科目ごとの5段階評定を算出。なお、生徒・保護者への観点別評価の報告は3段階で行った。</li> <li>観点別5段階評価は、学習目標への達成度に対して評価した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>5……目標を上回る成果を得たもののうち、特に程度の高いもの</li> <li>4……目標を上回る成果を得たもの</li> <li>3……目標をほぼ達成したもの</li> <li>2……目標達成にいつもの努力を要するもの</li> <li>1……目標達成の意志が見うけられなかったもの</li> </ul> </li> <li>各教科で観点別評価を行う上で、グループワークや実験実習、実技試験などを実施して、各観点の達成度を測るほか、定期試験の作問においても、各観点の達成度を測れるように作問を工夫した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>5段階評定を定めるとき、定期試験での点数と授業の平常点から算出した評定と、観点別評価に基づいた評定が異なることが生じる。学力向上のためには、国語、社会、数学、理科、英語では、定期試験の価値を高めていく。</li> <li>現在の公立学校と同じ方式では、「AAAA」で4が付くことがある反面、「AAAB」で5が付くことが生じる。生徒や保護者にとってわかりにくいいため、本校独自の方式も検討していく。</li> <li>上記2点を解消するために、評価法を見直していく。</li> </ul>



## 3. 学習指導

3-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領や設置者が定める基準（学則）にのっとり、学校全体として、生徒の発達段階や学力、能力に即した指導が行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高6年間を見越した各教科の学習指導計画の構築を図り、本校の実態に即した教科教育を行う。</li> <li>・従来型の授業スタイルに固執することなく、生徒主体型授業を導入するなど、より学習内容が身に付くよう生徒の指導にあたる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの手法を導入するなど、教科の特性に応じた学習指導方法を取り、生徒の活発な発言など授業の活性化が認められた。</li> <li>・必要に応じて過年度の学習内容を含めたり、学習内容をより充実する観点から教科書外の内容に言及したりし、基礎学力の定着と学力向上を図った。</li> <li>・従来の板書による授業やプリント学習に加え、電子黒板の活用など、わかりやすい授業を目指した。</li> <li>・初等部から中等部に進学する児童を対象に算数講座を開講した。入学してからの学習に躓くことのないように、基礎学力の定着を図った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の新入生の算数の学力幅が大きいため、現状のクラス毎の授業形態では、学習効果が低い。そのため、次年度より授業の形態を3クラス制（基礎力習得・基礎力定着・応用力育成）として、生徒自身が授業クラスを選択することで、授業への参加意識を高め、生徒個々のレベルに見合った授業を展開する。</li> <li>・初等部から入学してくる児童に対しての基礎学力の定着は図ることができた。しかし、外部から入学してくる児童についても基礎学力の定着を図る必要が十分にあるため、授業内での小学校の復習はもちろんのこと、次年度からは学力強化プログラムを計画・実施することで、基礎学力の定着を図っていく。</li> </ul>

3-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に改善されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣の確立を図る。</li> <li>・各種検定試験における目標級の取得を目指す。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期より学習の習慣を確立させるためには、入学前から、家庭の理解や協力を得られることが重要であり、新入生の保護者を対象に、学習ガイダンスを実施することができた。</li> <li>・朝のホームルームの時間を利用して朝学習を行うことで学習習慣の確立や基礎学力の定着を図った。</li> <li>・長期休暇中の提出物状況調査を行い、職員間にて情報共有を図ることで、学校全体で未提出物を減らす取り組みができた。</li> <li>・検定試験の受検を奨励したことで、前年度に比べ多くの生徒が受検した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高6年間を3段階に分け、学齢に応じた、本校オリジナルの週プランを作成した。この週プランを使用することで、学習習慣の確立を図っていく。</li> <li>・各種検定試験における目標級の取得のために、これまで以上にPDCAサイクルを意識した取り組みをしていく。</li> </ul>

3-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中心の授業から、生徒主体の授業への転換を図る。</li> <li>・知識中心の授業から、考える授業への転換を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板の活用をはじめ、従来型の授業からの工夫を図り、生徒への学習意欲の向上を図った。</li> <li>・机の配列や図書館の活用など、授業内容の目的に応じて柔軟な取り組みを行い、生徒の学習への関わりを強化することができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業目標や進度を踏まえ、限られた時間のなかでの生徒主体型授業の工夫を継続して行っていく。</li> <li>・生徒の学習意欲向上のため、常に学習教材の精選と活用を心がけ、授業の組み立てについて研究を続ける。</li> </ul>

3-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板やタブレット等の新しい機材を、各教員が使いこなせるようになる。</li> <li>・活用事例や講習を参考に、授業に積極的に導入していく。</li> <li>・最終的に、活用事例とその結果を教科で共有し、本校において効果的な活用を蓄積していく。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板の導入により、資料の提示・動画やインターネットの活用等を反映させた授業が日常的に行われるようになっている。</li> <li>・タブレットに関しても、体育のダンスを録画するなど教科で工夫した活用を行い、授業の可能性を広げている。</li> <li>・アクティブラーニングやICT関連の講習会への関心が高まり、積極的に参加する教員が増えている。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンやタブレットは「使用すること」そのものが目的ではなく、使用することにより「授業効果を高めること」が目的であるという視点で、もう一度、使用方法を見直していく。</li> <li>・さらに学力向上への効果を高めるため、e-ラーニングなどを導入し、家庭学習での使い方も考慮して授業を拡張していく。</li> </ul>

3-⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1時間国語の時間を「読書の時間」とし、図書室で国語科教諭が授業を行う。司書教諭は補助を行う。（3年生特進は、「卒論の時間」）</li> <li>・「読書の時間」を利用して、新1年生に図書室ガイダンスを行う。</li> <li>・授業利用以外の本、主に読み物を多く選書する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期については、1年生はPOP作り、2年生は読書郵便、3年生はPOP作りを行った。</li> <li>・2学期については、1年生は生徒のグループ同士で本の読み聞かせ、2年生は詩の群読、3年生はおすすめ本紹介スピーチを行った。</li> <li>・3学期については、1年生は読書感想文、2年生は読書感想文、3年生進学コースは「おすすめ本ブックカタログ」を作成した。</li> <li>・3年生特進は、1年間かけて卒論を書いた。</li> <li>・1学期の作品は、みどり祭で展示した。</li> <li>・中等部全クラスでの「読書の時間」の2年目であり、前年度の反省などを踏まえ、学年の様子などに対応した授業内容になった。</li> <li>・授業利用以外の読み物については、生徒・教員の希望も取り入れつつ選書できた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の「読書の時間」計画は国語科が作成しているため、各学年の様子なども話し合い、柔軟な授業ができるよう準備する。</li> <li>・生徒によって、読書力に差があるため、広い範囲の本を集めていく。</li> <li>・生徒全体でライトノベルが中心の読書になっているため、他のジャンルの本にも目を向けさせる。</li> </ul>

3-⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科の授業において、従来のような教員の一方的な講義形式の「教わる学習」から、「自ら学ぶ学習」への転換を図る。</li> <li>・ 各教科の授業ではグループごとに課題に取り組みせたり、討論の場を設け発表させる等して、生徒が抱いた興味・関心とその後の自主的な学習につながっていくようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科の授業において、グループでの共同学習、討論、発表等をできるだけ取り入れるようにし、生徒が自ら気づくことが学びにつながるような授業を実践した。</li> <li>・ グループ討議などは慣れない生徒もいるため配慮することも必要であったが、回数を重ねるにつれ、自ら考えたことを自分の言葉で表現することができるようになっていった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の学びの姿勢が能動的になったと見受けられる部分は確かにある反面、教科書の内容をこなさなければならないことを考えると、時間が足りない現状がある。</li> <li>・ 自らの気づきによる学びという基本的な考え方のもと、1つの授業時間のなかで講義、質問、グループ討議など様々な授業形態を複合させるなどの工夫をしていく。</li> </ul>

3-⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事、体験活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の体験や運営を通して、思考力や実践力を身に付け、感動や達成感が味わえるようにする。</li> <li>・生徒の安全を第一に考え、起こり得る危険を想定し、対処できるよう準備することを整理しておく。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり祭や卒業生を送る会などの学内行事では、各実行委員が担当教員と連携を図り、リーダーシップをとることで、生徒主体の有志企画が年々充実してきている。自主性や積極性を発揮し、得意分野を様々な形で表現する生徒が増えた。</li> <li>・宿泊等の学外行事では、自然災害時の対応、最寄りの医療機関等を事前に保護者に示し、健康状態の調査を行うなどして安全を第一に実施することができた。また、行程は数か月前から業者と打ち合わせを重ね、時間的に余裕を持った見学や体験活動ができるよう計画した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外行事の実施にあたっては、今後も生徒の安全に注意を払い、様々な側面から考え、細かく計画していく。</li> <li>・本校の良さを残しながらも、より生徒主体での行事運営ができるよう、新しいことにも積極的に挑戦する姿勢を持つ。</li> <li>・「Kamakura Beyond Project」については、委員会に時間をかけて、魅力あるものになるよう準備を進めていく。</li> </ul>

3-⑧	・生徒会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級委員会では、学校行事の一部を委員会で企画・運営を行う。</li> <li>・保健体育委員会では、保健体育関係の活動の運営・補佐を行う。</li> <li>・文化委員会では、「学校新聞」の発行を行う。</li> <li>・美化委員会では、校内及び周辺の美化活動を統括する。</li> <li>・ボランティア委員会では、各種募金活動やボランティア活動を統括する。</li> <li>・体育祭実行委員会では、体育祭の企画・運営を行う。</li> <li>・みどり祭実行委員会では、みどり祭の企画・運営を行う。</li> <li>・合唱コンクール実行委員会では、合唱コンクールの企画・運営を行う。</li> <li>・卒業生を送る会実行委員会では、卒業生を送る会の企画・運営を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28（2016）年度より常任委員会は前後期制をとり、活動期間を長く設定し生徒の主体的活動がしやすいようにした。</li> <li>・学級委員会では、4月21日に新入生歓迎会を行った。また、みどり祭でも実行委員とともに企画・運営を行った。</li> <li>・保健体育委員会では、次年度に向けて球技大会の企画を練った。</li> <li>・文化委員会では、年度末に「学校新聞」を発行する計画であったが、諸般の事情で発行を見送った。</li> <li>・美化委員会では、校内の美化を促進するための方策を検討した。また、校内外の花壇の整備を行った。</li> <li>・ボランティア委員会では、あしなが学生募金活動への参加、ペットボトルキャップ回収、青少年健全育成推進街頭キャンペーンへの参加、赤い羽根共同募金運動への参加等、様々な活動に参加した。</li> <li>・各実行委員会では、5月14日体育祭、9月17、18日みどり祭、1月26日合唱コンクール、2月23日卒業生を送る会を実施し、成功させた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度から放課後の時間に毎日、学習支援センターが学年別に行われるようになるため、放課後に全学年集まっての委員会活動はできなくなる。そのため、昼休み等を使ってランチミーティングの形で委員会を行う。短い時間で効率的な活動をしていく。</li> </ul>



3-⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制の下に積極的に実施されているか。</li> <li>・部活動が、教職員全体の協力体制の下で実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止、事故発生時、事故後についての対策を事前にまとめ、まずは事故が起こらない工夫をし、万が一のときには速やかに安全対策や応急手当ができる準備を整える。</li> <li>・安全に楽しく活動ができるように、活動時間や活動場所、活動内容を定める。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「校友会・事故防止のための安全対策」を校友会各部で作成し、安全や事故防止に配慮して活動できるようにしている。また、万が一事故などが起きた時には、速やかに対処できるような準備をしている。</li> <li>・部活動ごとに週休日を設け、体力面・学習面・安全面に留意して活動を行っており、大きな事故を起こさずに活動ができた。</li> <li>・活動中は、できる限り顧問が監督できるよう、特に運動部では顧問を2名以上配置している。職員会議など、職員不在の時は、活動内容を工夫し安全性の高いものを行うか、活動自体を自粛している。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、事故を防止するために横のつながりや生徒の自発性を高めて、より安全に活動できるように工夫や改善を進めていく。施設や備品の破損は、放置すると二次災害の危険性もあるため、速やかに修理若しくは廃棄を行う。</li> <li>・可能な限り活動中に顧問が監督できるようにしているが、公務の都合などにより顧問不在の場合もある。その際は、活動場所が同じ別の校友会顧問と協力をし、万が一の場合には速やかに対処・連絡が取れるように工夫しているが、特別講習や委員会活動など放課後活動を整理し、担当顧問が直接安全管理できる体制を整えていく。</li> <li>・中・高等部の組織として、部活動を教育活動の一部という認識を教員が持ち、生徒の実践力・思考力・共生力を育むために、互いに協力できる雰囲気を作っていく。</li> </ul>

3-⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の質問に対応する個別指導や各種講座を学習支援センターにて実施することで個別指導及び補充的な学習の役割を果たす。</li> <li>・特進講習を実施することで発展的な学習及び補充的な学習の役割を果たす。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援センターを予約制にすることで、利用者に対するきめ細かな指導を行うことができ、前年度と比較すると利用率を大幅に増加させることができた。</li> <li>・各学期に学習した内容の確認を行い、基礎学力の定着を図るために、定期試験前の対策講座だけでなく、定期試験後のフォロー講座を設置した。定期試験フォロー講座では苦手分野の克服をはじめ、新学期から意欲的に学習に臨めるようにした。</li> <li>・特進講習では授業で習った学習内容の演習を行い、基礎学力の定着を図るだけでなく、発展的な学習内容まで扱うことができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援センターの利用率を増加させることができたが、利用者に関しては固定化されてきた印象にある。そのため、多角的な視点に立って使いやすさを追及していく。</li> </ul>

3-⑪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中等部1年進学コースの1組は2人担任制をとり、きめ細かな学級運営にあたることができるように配慮する。</li> <li>・ 理科における実験・観察においては安全を第一に、教科担当の他に実験助手がつきチームティーチングで実験・観察指導にあたる。</li> <li>・ 英会話の授業では各学年ともネイティブの教員に英語科担当がつき、授業の進度や生徒の理解度に合わせて英語科担当がフォローに入るようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中等部1年進学コース1組の2人担任制においては、役割分担という形はあえてとることなく、常に2人で全体を把握しながら指導に当たることを心がけた。</li> <li>・ 理科の実験・観察においては各班や個々の実験進度に応じて、授業担当者だけでは見きれない部分を実験助手がサポートに入ることにより、生徒が方法や手順を理解しながら時間内に実験を進めることができた。</li> <li>・ 英会話ではチームティーチングの形態での授業を以前から行っており、授業の進め方などは英語科のなかで確立されつつあり、学習効果は上がっている。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中等部1年進学コースにおいて2人担任制を初めて試みたが、個々の生徒に目が行き届くという反面、保護者からはどちらの担任に相談すべきかという意見があった。そのため、担任間の情報共有を徹底していくことで一貫した教育活動を展開していくとともに、2人担任制の教育効果についても十分に検討を重ねていく。</li> <li>・ 理科実験、英会話の授業におけるチームティーチングは概ね良い成果がでていたため、今後も同様の授業形態で行っていく。</li> </ul>

3-⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。</li> <li>・幼稚部との連携に関する取組がなされているか。</li> <li>・小中連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。</li> <li>・中高連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部、初等部、中・高等部において行事や授業等の機会を通して可能な範囲で共に取り組む。</li> <li>・幼稚部と中等部では、みどり祭での補助をはじめ、中等部2年の家庭科の授業において連携を図る。</li> <li>・初等部と中等部では入試広報関係を強化し、初等部に中等部をより詳しく知ってもらう企画を実施する他、授業においても連携を図る。</li> <li>・中等部、高等部においてはそれぞれの発達段階を踏まえ、教科では中等部での学びが高等部につながるように配慮するとともに、校友会活動や各行事においても学年ごとの役割をもたせた上で上級学年につなげる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中等部2年生が、家庭科の保育内容を実践的に学ぶため、園児とのふれあい体験を幼稚部の協力を得て実施した。さらにマーチングバンド部が幼稚部の運動会で演奏・演技を披露し、実践的な学びにつなげることができた。</li> <li>・初等部とは、入試広報担当者による教員向けの説明会及び保護者向けの説明会を実施した他、中等部1年担当教員と初等部6年担当教員との間で中等部1年に進学する生徒に関する申し送りの機会を設けた。</li> <li>・初等部4年生と特進コース中等部2年生の理科の授業において、「イカの解剖実験・観察」を連携して行った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26（2014）年度までみどり祭で行われていた、バスケットボール部や児童文化部と初等部生との交流が、みどり祭が別日程になったこともあり、できなくなってしまうことが課題である。どのような機会に校友会の生徒と初等部の児童との交流ができるかを模索していく。</li> </ul>

3-⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいて大学と中等部が連携を図る。</li> <li>・みどり祭において大学の学友会と中等部の校友会との連携を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいては予定どおり連携することができた。</li> <li>・大学のみどり祭においてマーチングバンド部とフェアリーコンサート部が演奏・演技を披露した他、中・高等部のみどり祭ではフラダンス等いくつかの学友会が演奏・演技を披露し、会場が盛り上がった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習における学生の評価については、情報を共有し報告をする過程を通して、より連携を図っていく。</li> <li>・みどり祭での交流は引き続き学友会と調整して継続していく。</li> </ul>

## 4. キャリア教育（進路指導）

4-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教職員全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりが、自らの強みや得意なことを発見し、意識しながら学校生活を送ることができるようにする。</li> <li>・生徒が所属集団のなかで、どのような役割を担うことができるか各種活動を通じて発見し、意識することができるようになる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃活動やLHRでの班別活動、3年生では「Kamakura Beyond Project」など校内活動において、活動後の振り返りを通じて、生徒自身が自らの強みや得意なことを発見できるように取り組んだ。その結果、低学年は自らの強みを意識することの必要性を理解し、高学年では自らの強みを生かした活動ができるようになった。特に3年生は、「Kamakura Beyond Project」の活動において、自らの強みを活用できた。</li> <li>・進路行事や「Kamakura Beyond Project」の活動を通じて、チームビルディングの重要性を認識する取り組みを行った。また、学校行事のなかで与えられた役割を経験し、役割適性を意識したり、活動の振り返りを通じて名称の無い役割を発見する取り組みを行った。その結果、自分自身に多くの役割や得意分野があることが発見でき、高等部におけるキャリア教育の土台を構築することができた。</li> <li>・前年度の課題点である、「強みの発見・意識・活用」や「役割の発見・意識」について、ループリック評価票の作成に着手できた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Kamakura Beyond Project」の活動がキャリア教育の中心的存在になることができるよう、教員間の情報共有や、目標の共有を更に充実させていく。</li> <li>・「強みの発見・意識・活用」や「役割の発見・意識」について、ループリック評価票の具体的項目の絞り込みを行い、活用可能なものにしていく。</li> </ul>

4-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。</li> <li>・職場体験や就業体験が適切に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりが、自らの強みや得意なことと社会課題を比較をすることで、どのような形で社会に貢献できるか考えさせる。</li> <li>・中学校における学びについても各項目の本質部分を明確にし、社会で必要とされる思考のフレームの基盤となっていることを理解させる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生による職場体験が生徒の進路選択を狭めるという報告があるため、職場体験や就業体験は高等部での取組としている。</li> <li>・「Kamakura Beyond Project」の活動のなかで、3年生は企業やNPO法人を訪問して、これらの組織がどのように社会課題を解決し、貢献しているかを知る活動を行い、企業が単なる営利組織ではないことや、組織発足の目的が社会課題にあることが理解できた。</li> <li>・通常の授業で扱っている内容が、思考のフレームであることを生徒に意識させ、「Kamakura Beyond Project」の活動で実際に利用しながら活動を行った。その結果、生徒の授業に対する価値観に変化が生じてきた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路選択の幅を狭めることがないような、社会体験の場として、「Kamakura Beyond Project」の活動における企業、NPO法人訪問が活用できた。今後は、訪問先の開拓を行い、多くの業種の話を知ることができるような取り組みを検討していく。</li> <li>・思考のフレームの体系的な指導方法については、今後も検討を継続していく。</li> </ul>

4-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の能力・適正等の理解のために必要な個人的資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面談、三者面談による情報収集と、生徒への助言・指導を行う。</li> <li>・清掃活動などの日常の学校生活のなかで、生徒の強みや得意、適した役割を把握し、進路学習時に活用する。</li> <li>・模擬試験による学力情報の収集と学習スキルの把握をし、帳票返却による学習スキルなどの指導・助言を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の課題であった部活動と面談の時間のバランスは、顧問教員の意識変化により、担任が行いやすくなった。</li> <li>・二者面談において、生徒とのコミュニケーションを通じて、コミュニケーションスキルや思考の癖、興味の方向性を把握した。その結果、思考の癖や興味の方向性を考慮した進路学習のきっかけを作ることができた。</li> <li>・三者面談において、保護者の進路意識や進路知識を把握した。その結果、保護者間で進路意識に大きな差があることが把握できたため、ガイダンス等で意識差を埋めるようにした。</li> <li>・模擬試験の帳票を返却する際や授業などで、学習に関する目標設定の方法や学習スキルの指導を行った。その結果、生徒の学習スキルに対する意識の変化があり、目標設定を行うようになった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面談や三者面談を必要に応じていつでも実施するものだという意識を教員だけでなく、生徒や保護者に根付かせる。</li> <li>・大学入試の変化についての情報がかなり整理されてきたため、予備校などから講師を招聘し、保護者と情報共有していく。</li> </ul>



4-④	・進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面談を利用した構成的な進路学習やキャリア学習に関する指導と、学校行事や清掃の時間を利用した非構成的なキャリア学習相談を行う。</li> <li>・キャリア・カウンセリングに関する知見やスキルについては、進路指導主任がキャリア教育学会認定のキャリア・カウンセラー資格を取得しており、研修会等で収集した情報を必要に応じて教員に伝達する。</li> </ul> <p>※中等部からは原則全員が高等部に進学するため、進学指導的な要素は行わない。</p>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成的な進路学習やキャリア学習に関する指導では、進路学習に関する方法の指導とキャリア学習に関する方向性と考え方の相談を行った。キャリア学習と学力変化に相関があることが研究会等で示唆されており、相関を確認した結果、有意な効果が認められた。</li> <li>・非構成的なキャリア学習相談では、行事や清掃時の様子から生徒の強みや適性の高い役割を把握し、これらを生かしたキャリアデザインの考え方のヒントを、日常会話のなかに盛り込んでいった。この結果、二者面談で構成的な進路学習やキャリア学習に関する話題を円滑に話し合うことができた。</li> <li>・キャリア・カウンセリングやキャリア・デザインに関する知見やスキルに関する情報提供は、基本的にキャリア・カウンセリングや生徒のキャリア・デザインに苦慮する教員からの相談を受ける形で行った。その結果、教員が苦慮している状況に即した情報提供を行うことができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア・カウンセリングに関する知見やスキルの情報提供の組織的な運営を行うべく、進路指導部の教員がキャリア教育学会やキャリア・デザイン学会に所属できる環境整備を行っていく。</li> </ul>

4-⑤	・キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導に関する情報発信は、教室の掲示板を利用して行う。</li> <li>・キャリア学習に関する相談について進路相談室を利用して行う。</li> <li>・キャリア学習が進んでいる生徒に対しては、自習室を開放して、将来の進学に向けた準備ができるようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級学年の教室に、大学の合同説明会や体験学習を伴うオープンキャンパス情報を掲示して、体験を通じたキャリア意識の育成を促している。その結果、高等学校や大学での学びと社会との結びつきを意識するようになった。</li> <li>・キャリア学習が進んでキャリアデザインが固まりつつある生徒には、大学受験を意識した学習を自習室で行わせ、受験を間近にした高等部生をロールモデルとして、意識できるようにした。その結果、学習習慣の確立だけでなくPDCAサイクルを意識した学習ができる生徒が出てきた。</li> <li>・生徒自身の強みの認識や役割意識を高める設備整備は進まなかったが、「Kamakura Beyond Project」の活動を通じて、各自が強みや役割を意識する機会が増えた。また、「Kamakura Beyond Project」の活動に関する掲示を教室等に掲示することで、「Kamakura Beyond Project」の活動を意識し、役割を考えるきっかけにすることができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア意識向上だけでなく、大学進学への意識付けができる掲示などを検討していく。</li> </ul>

## 5. 生徒指導

5-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教職員全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導計画に基づいた生徒指導を行う。</li> <li>・職員会議において各学年の生徒状況を報告し、生徒の状況について共有する。</li> <li>・生徒指導事案について、全教職員で共有できるシステムを考案する。</li> <li>・生徒指導部からの細かい生徒指導に関することを即時的に連絡し、各学年で対応がしやすいようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに生徒指導計画を全教職員に配布し、指導の重点目標を共有した。それが各学年ごとの生徒指導の指針となり、指導の一貫性を保つことができた。</li> <li>・職員会議で、各学年から生徒の状況報告が毎月実施され、特別な指導を要する生徒に対して、教職員全体で対応できるようになった。</li> <li>・特別指導案件のデータベースを作成し、求めがあれば教職員内での開示を可能とした。</li> <li>・学校グループウェアが定着し、生徒指導部からの諸連絡が徹底されるようになった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校改革が進められていく中で、学校に求められる生徒指導のあり方に変化が生じてきている。そのため、生徒指導計画の抜本的な変更について検討していく。</li> <li>・職員会議での生徒状況報告では不足する詳細情報等をまとめるデータベースを整備していく。と同時に、守秘義務情報の漏洩、データの保管方法等についても検討していく。</li> <li>・学校グループウェアによる情報共有は定着しつつあるが、その情報の重要度は教員により異なる。各教員の個人差に対応した新しいグループウェアも検討していく。</li> </ul>

5-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか。</li> <li>・スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりの生活状況の共有を行い、生徒の心理的な変化に迅速に対応する。</li> <li>・報告、連絡、相談を行うことで、学年単位、学校単位で生徒の心のケアを行う体制を整える。</li> <li>・生徒が教育相談室を利用しやすくなる雰囲気を作るため、職員室との連絡体制をより緊密なものとし、教員が積極的に相談するようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に一回、スクールカウンセラー、養護教諭、学年主任などが集まり、各学年の生徒の情報を共有することで、注意深く見守ることができた。</li> <li>・スーパーバイザーの協力も大きく、学年・学校単位で情報が共有できた。</li> <li>・カウンセラーまで事案を進めることなく、学年や保健室で生徒への対応ができた。</li> <li>・カウンセラーと連携を取り、情報提供がこまめに行われているため、迅速な対応ができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセラーからの情報が、担当教諭や学年主任までに止まり、他の教員が十分、生徒状況を把握できていないケースが見られた。対応に留意すべき生徒の情報について、教員間で共有できるようにしていく。</li> <li>・教育相談の場では、特定の生徒の情報が中心となっているため、他の生徒の情報についても確認していく。</li> </ul>

5-③	・生徒の問題行動の状況を共有し、適切に対処できているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の特別指導等についての記録は、パソコンで一元的に管理する。</li> <li>・重大な問題行動が起こったとき、教職員間での速やかな情報共有を行う。</li> <li>・学年・生徒指導部・管理職での情報の伝達を円滑に行い、最善の対処を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の特別指導案件について、パソコンで一元管理することができた。その結果、特別指導案件の特徴や傾向を概括的に把握することができた。</li> <li>・重大な問題行動が起きた場合に、内容に応じて学年会議や分掌会議、臨時職員会議を開催し、教職員に速やかな情報共有することができた。</li> <li>・生徒指導部が中心となり、各学年と管理職、または外部機関等とも連携をとりながら、生徒指導案件に対応することができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の大きな問題行動は、減少の傾向にある。一方、家庭での問題や生徒自身の内面の問題が重大化している傾向がある。家庭での問題にはなかなか踏み込めない場合も多いが、二者面談や三者面談等だけでなく普段の生徒との会話を通じて、包括的に対処していく。</li> </ul>

5-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる生徒を育成するための指導を行っているか。</li> <li>・相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる生徒を育成するための指導を行っているか。</li> <li>・社会の一員としての意識(公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど)を身につけた生徒を育成するための指導を行っているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自発的に考え、行動する機会を増やし、思考力や実践力を高める。</li> <li>・グループ活動等の体験的な学びと教員からの指導を交えて、奉仕の精神や公德心などを養い、互いを認め合い、高め合う雰囲気を構築する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業においてはアクティブラーニングを取り入れ、また、みどり祭や卒業生を送る会などの行事を生徒主体で行い、自発的に考えて行動する機会を確保した。その結果、積極的な思考・発言が身に付いてきている。実行委員を中心に、自主的に計画して実行し、全体の運営を成功させたことで、生徒主体の活動に対する意欲が高まった。</li> <li>・校外学習や宿泊体験において、グループでの共同作業を行った結果、級友たちと互いに認め合いながら協力しあって物事を成し遂げる力や態度が育成された。</li> <li>・学級や委員会等の活動を通じて、個人が責務を果たすことの大切さを説き、一人ひとりが自身の役割を果たせるよう指導した。その結果、自分の分担箇所だけで終わらずに他の分担場所を手伝ったり、更に細かな部分まで丁寧に組みんだりする自主的な姿勢や奉仕の精神が高まった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的、体験的な活動に参加する生徒が限られてしまうことが課題であり、自主・自立、社会の一員としての意識を養うために、より多くの生徒が意欲的にかかわれる場を設定することが必要である。そこで、授業におけるアクティブラーニングを、研修や教材研究によって、さらに充実させ、また、平成28(2016)年度から始めた企業活動を取り入れたプログラム「Kamakura Beyond Project」を活用して、生徒が学年を越えて活躍できる取り組みの充実を図る。</li> </ul>

## 6. 保健管理

6-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法定の学校保健計画が作成され、適切に実施されているか。</li> <li>・生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談が適切に実施されているか。</li> <li>・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健計画を作成し、適切に実施する。</li> <li>・生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。</li> <li>・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断を適切に実施する。</li> </ul> <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健計画を作成し、適切に実施する。</li> <li>・学校保健安全法改正に伴う健康診断項目の変更点を踏まえ、適切に実施する。</li> <li>・保健管理、保健指導、保健相談を適切に実施する。</li> <li>・学校管理下での災害共済給付金の手続きを適切に実施する。</li> <li>・学内における感染症の流行を予防する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室と各教科指導の連携により、学校保健計画を速やかに作成し、計画に沿った保健指導を実施することができた。</li> <li>・職員室、保健室、教育相談室を中心に、保護者とも連携を取りながら保健指導、保健相談を行うことができた。</li> <li>・クラス担任、学年主任、教科担当者と保健室が連携して日常の健康観察や心のケアを行い、年2回の体位測定を始め、年初の健康診断など、適切に実施することができた。</li> </ul> <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科指導と連携して学校保健計画を作成し、計画に沿った保健指導を実施することができた。</li> <li>・年初、家庭から提出された「保健記録票」にて生徒の健康情報を把握し、必要に応じて学校生活管理指導表の提出を家庭へ依頼した。新入生については年初に宿泊行事があるため、入学式前に保健関係の書類を回収し、早い段階での健康情報の把握と職員間での情報共有に努めた。</li> <li>・健康診断を円滑に行うことができた。事後措置については必要に応じて担任と連携し、病気の早期発見・早期治療に繋げることができた。</li> <li>・教育相談委員会の定期開催だけでなく、必要に応じてケース会議にも参加し、生徒の情報把握と対応に努めた。</li> <li>・毎月、学校管理下での災害の手続きを適切に実施し、けがの状況を把握した。</li> <li>・感染症対策として、手指消毒及び嘔吐処理セットの点検と補充、全体に対しての情報発信、欠席状況調べ等を行った。</li> </ul>

今後の課題 と改善策	<p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各教科による保健指導は、教科の単元に応じた保健指導が中心となるため、各教科の横のつながりを更に深める。</li><li>・担任は日々の業務のなかで生徒とかかわることができる時間が十分に取れていない現状にある。放課後や休み時間をもっと生徒と過ごせるような、業務体系の抜本的な改革に向けて検討する機会を作っていく。</li></ul>
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・健康診断、特に運動器検診をさらに円滑に実施できるよう、事前準備、実施方法、事後措置について検討する。</li><li>・冬季学校環境衛生検査において2教室の二酸化炭素濃度が基準値を超えていたため、次年度は改善すべく、生徒及び職員に注意喚起する。</li></ul>



## 7. 安全管理

7-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているか。</li> <li>・学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。</li> <li>・校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全計画を作成し、適切に実施する。</li> <li>・学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成し、活用する。</li> <li>・校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組を定期的に行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全計画を作成し、それに則って教育活動を行うことができた。</li> <li>・「防災・防犯マニュアル」を作成し、全校生徒に配付し、防災教育及び防犯教育に活用した。</li> <li>・部活動ごとの活動の特性を鑑みて「各部事故防止対策」を作成し、それに則った活動を行った。大きな事故や怪我はなく、活動できた。</li> <li>・校舎の安全点検について、各場所の責任者を設定し、定期的に点検を行った。また、週番の活動のなかでも毎日点検項目を設定して、実施している。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路の安全点検については、バス停周辺での安全指導等を行っている。</li> <li>・徒歩で下校する生徒が少ないため、あまり想定していないが、本郷台方面の通学路についても調査・研究していく。</li> </ul>

7-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防火・防災計画を整備した上で、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。</li> <li>・各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回、防災訓練内で消火器取り扱い訓練と屋内消火栓取扱い訓練を各1回行った。また、教職員対象の救命救急講座を1回実施した。</li> <li>・中・高等部独自の「防災・防犯マニュアル」を発行することにより、生徒だけではなく保護者に対しても、防災に関する心構えや基本行動の周知を行うことができた。</li> <li>・防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、生徒の災害時の食事に対する意識を高めた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面を想定し、併設校各部や総務部、管轄消防署と相談を行いながら、生徒や保護者も含めた有事に対応できるような訓練を今後も継続していく。</li> <li>・特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、幼稚部や初等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。</li> </ul>

## 8. 組織運営

8-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員との対話を重視し、意思の疎通を心がける。</li> <li>・教職員の意見や相談には真摯に応えるなど、良好な職場環境を心がける。</li> <li>・あらゆる教育活動において、管理職から適切な助言を呈する。</li> <li>・学校運営の方向性を示し、策定した教育ビジョンの実施に取り組む。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職は、全教職員との面談を実施したり、学年・分掌主任などとの話し合いをしたりすることで、意思疎通が図られ、信頼関係が得られた。</li> <li>・教育活動全般において、管理職の適切なリーダーシップにより、教職員の一体感が生まれた。</li> <li>・教育活動への助言が有効に働いた。</li> <li>・策定した教育ビジョンが浸透し、教育活動に変化が見られた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員と管理職の信頼関係は十分に築かれており、今後も継続に努める。</li> <li>・部長、次長のリーダーシップのもと、教職員一人ひとりが学校経営に携わっていることを自覚するよう、いっそうの意識改革を進めていく。</li> <li>・策定した教育ビジョンの完成には時間が必要なため、今後も継続していく。</li> </ul>

8-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教員が各校務分掌のいずれかに所属し、組織的な学校運営を行う。</li> <li>・各主任は、校務が確実に遂行されているかを適宜チェックする。</li> <li>・前例踏襲を見直し、より良い学校運営を目指す。</li> <li>・管理職との連携を密にし、的確さを欠くことのないように配慮する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全員が校務を担うことで、学校運営への参画意識が強化された。</li> <li>・組織的な校務運営の形態が定着し、各分掌主任は、分掌担当者への調整や助言を行った。その結果、ほぼすべての校務内容を着実に遂行することができた。</li> <li>・長年の仕事をそのまま踏襲する傾向に対して、管理職からの指示により改善を促し、その成果があらわれてきた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来から継続されている校務の内容や方法が見直され、教育目標に即した内容への見直しが図られてきたことを今後に継続する。</li> <li>・組織としての機能は果たしているが、教職員の意識には依然として軽重がうかがえた。分掌主任による指揮を高め、仕事内容の質的向上に努める。</li> <li>・管理職への相談は非常に多く、学校運営の方向性は一致していると考えられるが、さらに個々の教員の資質向上を図り、学校の運営を確固たるものとする。</li> </ul>

8-③	・職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議、職員会議のほか、分掌会議、学年会議を定例化する。</li> <li>・運営会議での合意を踏まえ、職員会議での指示・伝達を確実に実施する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事予定に学年会議や分掌会議を位置づけたため、会議の定例化が図れた。</li> <li>・必要に応じて臨時の運営会議や職員会議を開き、教職員への意思疎通を図ることができた。</li> <li>・事前の資料配付等により会議の内容を周知することで、円滑かつ有意義な会議への転換が図れた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議による組織の活性化が図られているため、定例の会議以外にも、必要に応じて随時開催する。</li> <li>・会議の内容を事前に周知することが有効であったため、今後も同様に進める。</li> <li>・学年会議、職員会議等において、教職員全体で共有した情報は生徒指導等の教育活動に生かされており、今後も情報共有を続けるよう努める。</li> </ul>

8-④	・各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理され、また、情報の取扱方針が教職員に周知されているか。
取組目標	・職員の守秘義務の徹底を図る。 ・個人情報に関するすべての事柄の取り扱いは、慎重かつ適正に扱う。
今後の課題と改善策	・個人所有の情報機器の使用及び、デジタルデータの持ち出しを禁止することで、情報の漏洩を防いだ。成績処理を持ち帰らないことを励行した。 ・生徒の氏名や住所、成績等一切の個人情報は、教務部で一元管理されている。
今後の課題と改善策	・今後も引き続き、個人情報管理の徹底に努める。

## 9. 研修（資質向上の取組）

9-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究については年に2回、6月と11月の学習月間に授業公開週間を設け、中・高等部の教員同士だけでなく、初等部の教員も授業を参観し、授業改善につなげる。</li> <li>・授業形態は従来の講義形式の「教わる学習」から「自ら主体的に学ぶ学習」に転換を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開週間が1週間あり、この期間を使い他教科の授業を参観することになっており、初等部の教員にも公開した。</li> <li>・平成28（2016）年度は11月に中・高等部で「附属校サミット」があったため、研究授業は来校された多くの教員に公開することができ、参観後のディスカッションやアンケートでは好評価をいただくことができた。</li> <li>・どの教員もグループでの共同学習、討論、発表等をできるだけ取り入れるようにし、生徒が自ら気づくことが学びにつながるような授業を実践した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までも教科会等を利用してそれぞれの授業方法については意見交換や討論を行ってきたが、今後は教科ごとにさらにディスカッションをする機会を設ける等して連携を図りながら授業改善、授業研究につなげていく。</li> <li>・どの教員も講義形式の一斉授業から脱し、生徒が自ら学べる授業を行っているが、中等部の生徒の場合、授業内でのめりはりを明確につけないと、グループワーク等の時間がかなりとられてしまう場合があるため、留意していく。</li> <li>・生徒の学力向上のために、授業研究、教材研究、専門分野の研究、入試問題研究を通して、教員自身の授業力の向上を図っていく。</li> </ul>

9-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の課題が適切に設定され、実施されているか。</li> <li>・教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善と募集力の向上をキーワードに校内研修・校外研修とも教科や分掌ごとに幅広く研修に参加することを促していく。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの教員も教科や所属している分掌の研修には積極的に参加しており、教科においては生徒主体の能動的な授業への転換が図られている。</li> <li>・各分掌の研修では募集力を高める内容のものから、合格実績を向上させた学校の事例のものなどに参加したことで、具体的に生かすことができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各研修に参加する際、午後の空き時間を利用して出張することが多いため、午後に選択教科の授業が入っている場合は時間割変更が難しく研修に参加できないこともある。また、週休日との関連で担任の代わりに終礼に行く場合、出張に出られない状況もある。学年や分掌で交代するなど、多くの教員が研修に参加できる環境を整えていく。</li> </ul>



9-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか。</li> <li>・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校開放デー（授業参観日）だけでなく、平素の授業においても部長、次長、スーパーバイザー、教科主任が授業観察を行い適切な指導にあたる。</li> <li>・授業観察で把握できた教員の不適切な指導については、スーパーバイザー、教科主任が担当教員に助言する他、改善がなされるまで次長、部長が指導にあたる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察は年間を通じてなされ、スーパーバイザーや教科主任から担当教員に、指導上の留意点・改善点が詳細に伝えられた。その後改善されているか否かの確認を部長、次長が行った。</li> <li>・指導が不適切と指摘された教員の授業内容や方法はかなり改善されており、授業アンケートが実施されたことと合わせて、授業力アップに効果的に働いている。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開週間だけでなく、定期的に授業観察をするため、スーパーバイザーの持ち時間数がある程度調整していく。</li> <li>・指導に問題が見受けられた教員に対しては、改善された内容を随時確認するとともに、教科内での研修や外部研修も活用して質の高い授業が生徒に提供できるようにする。</li> <li>・指導が不適切な教員の事例については、部長、次長、教科主任を中心として引き続き助言をし、教科内の教員間でも共有する。</li> </ul>

## 10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が学校運営に参画し、協力できる体制を整えているか。</li> <li>・教育ボランティアを集めるシステムができているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が行事等を通じて、学校運営に協力できる体制を整える。</li> <li>・必要に応じて外部の教育ボランティアの協力を得られる体制作りを検討し、その基礎を構築する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり祭の保護者企画は、前年度に引き続き保護者の自主的な活動が見られ、大変有意義なものとなった。</li> <li>・総合的な学習の時間の「Kamakura Beyond Project」では、外部のボランティアを導入し、企画の体制作りやみどり祭への事前準備に向けて進展が見られた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり祭の保護者企画は、今後も継続的に行うことで、保護者との連携を密にし、学校と保護者の協力体制を作る場として今後も有効に活用する。</li> <li>・実際に外部のボランティアを活用し、次の発展につなげていくために、今後更なる検討や準備を行っていく。</li> </ul>

10-②	・学校公開を定期的に実施しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観や運動会等の行事を通して、学校公開を定期的に行う。</li> <li>・保護者講座や保護者対象の立居振舞等を通して学校と保護者との関連を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観では、多くの保護者に幅広く学校を公開するために、曜日の設定や授業を自由に参観できるようにするなどの工夫をした。</li> <li>・体育祭では、保護者参加種目を設定することで、共に活動する場となった。</li> <li>・保護者講座や立居振舞では保護者と教員が知識や視野を広げながら、なおかつ楽しみながら実施できるよう内容を工夫し、円滑な交流の場として機能した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観は学年が上がると、参加人数が減少傾向になっている。実際に生徒の学習の様子を見てもらう機会を増やすためにも、今後も継続した体制作りを行っていく。</li> <li>・保護者講座においては、よりニーズの高いものに特化し活性化していく。</li> <li>・次年度も学校開放デーを設けるなど広く公開する体制を整えていく。</li> </ul>

10-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。</li> <li>・教育相談体制を整備し、生徒・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者のニーズを聞き取り、現状把握を行い、内容を精査し反映させる。</li> <li>・学校生活における生徒の様子や現状を、教員と保護者が共有できる場としての保護者会や保護者懇談会を実施する。</li> <li>・三者面談を通じて、直接担任と生徒、保護者が話し合うことで、生徒の抱える問題や保護者の不安に迅速に対応する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関するアンケートを実施し、アンケート結果を踏まえ、各教員の授業見直しやスーパーバイザーと協力した授業改善に取り組むことができた。</li> <li>・学校生活に関するアンケートを実施をしたことで、表面化されていないクラス内の傾向を知ることができ、学級担任のクラス運営に役立てることができた。</li> <li>・保護者懇談会を実施し、管理職が直接保護者と意見交換をすることで、風通しが良くなるような土台作りができた。</li> <li>・保護者会の効果としては、複数の保護者が一堂に会し、直接話をするのができ、家庭間の情報共有がよりスムーズにできている。必要に応じて、学年保護者会を実施することで効果をあげている。</li> <li>・三者面談は、限られた時間内であるため、すべての相談ができるわけではない。必要に応じ、別の日に担任以外にも学年主任やスーパーバイザー、カウンセラーを交えて実施するケースもあった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関するアンケートの内容を精査し、より学力向上やアクティブラーニングにつながる生徒の意見を聞き取り、これまで以上に生徒が主体となり、双方向性と活気のある授業展開の構築を行っていく。</li> <li>・学校生活に関するアンケートを実施したことで、いじめの原因となり得る事象の発見や学級の生徒の思いが気づきやすくなった。しかし、アンケート項目が多いことや生徒のアンケートに対する慣れによって、回答方法が雑になり、正しい実態評価につながるのかといった不安要素もある。そのため、アンケートの質問内容を簡潔化し、効果的な質問へ絞っていく。</li> <li>・保護者懇談会については、懇談会参加者が固定化される傾向もあるので、今後は、より多くの保護者の意見を把握する方法を検討していく。</li> <li>・三者面談においては、生徒、保護者と面談できる時間が限られている。必要に応じて、問題を多く抱えている生徒や家庭においては他日面談日を設けるなどし、柔軟に対応していく。なお、面談前には学年会議を行い、情報共有に努めているが、更なる取り組みを行っていく。</li> </ul>

10-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と学校の良い信頼関係を構築していくために、定期的に情報の伝達や公開を行う。</li> <li>・情報提供により、保護者が学校に関心を持ち、学校理解の一つになるようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園全体の広報誌「学園だより」や、機関誌「緑苑」、進路指導部からの「キャリア・進学だより」、生徒指導部からの「生徒指導部だより」、保健室からの「保健だより」等を通じて、行事予定や生徒の学校での活動の様子、進学、キャリアの情報、生徒指導上で留意すべき事柄等を定期的に様々な形で提供した。</li> <li>・平成28（2016）年度は「学年だより」を各学年が毎月定期的に発行し、生徒の日常生活の様子や学年の担任からのメッセージ等を掲載した。情報共有の場として活用し、大変有意義なものとなった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学年だより」は、各学年がその時々伝えたい情報を提供し、特徴がよく出されていた。今後も継続していくことが保護者との信頼関係を築く基礎となる。掲載される内容は、保護者が知りたいと考えている情報を選び、また生徒も興味を持ち目を通せるものを提供していく。</li> </ul>

10-⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間や校外学習の時間を利用し、鎌倉の自然や文化財に触れる機会を積極的に増やし活動する。</li> <li>・「赤い羽根」等のボランティア活動を通じて地域社会との連携を深める。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中等部1,2年生は校外学習を通じて鎌倉の神社、仏閣について事前学習をした上で、グループ活動を実施した。</li> <li>・中等部3年生は平成28（2016）年度からの起業活動の一環として行われている「Kamakura Beyond Project」の取り組みとして、鎌倉市内の企業訪問を行い、企業設立のためのノウハウや事業内容などの話を伺った。</li> <li>・赤い羽根募金等に意欲的に協力し、各クラスの委員を中心に積極的に活動した。また、地域社会との連携の一つとして、児童文化部によるかさまの杜保育園への訪問において、園児と触れ合う時間を設けた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりいっそうの地域社会との連携を強めるためには、企業や外部の専門家の導入が不可欠になると考えられる。また、生徒の自主的な活動を引き出すために、時間を確保した上での実施計画を作成していく。</li> <li>・募金の意義や必要性を丁寧に説明し、より自主的な活動につなげていく。</li> </ul>

10-⑥	・教育実習生の受け入れ体制が十分に整っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習期間や取組内容を確立させた上で、事前に十分に学校として指導を行い、自覚をもたせる。</li> <li>・生徒の前では、教員としての自覚をもち、自発的に行動できるよう担当教諭を中心に指導する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前に、事前の面談を行い、学生の自覚と意思を確認して取り組ませることができた。特に受け入れ前には、次長から実習に向かう心構えを説明し、実習に臨ませている。</li> <li>・教科指導と学級指導だけでなく、生徒への接し方や実習日誌の記入についても、それぞれの担当教員が、適切に指導しているため、実習期間で学生に大きな成長が見られた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の説明で、実習の重要さと、それを乗り越えるだけの努力が必要であることを、十分に学生に説明していく。</li> <li>・実習生を受け入れる人数については、担当教員1名につき実習生1名がきめ細かい指導をするための理想であるため、実習生の指導可能教員数を超える人数を受け入れることに対する対応については、引き続き今後の課題になる。</li> </ul>

## 11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動についての説明会を実施したり、学校案内を配付したり、ホームページを活用するなど、学校に関する様々な情報が、多様な媒体を用いて分かり易く、かつ適切な分量で提供されているか。</li> <li>・ホームページに校長名、学校の所在地、連絡先、学級数、生徒数、教育課程などの基本的な情報が提供され、情報が定期的に更新されているか。</li> <li>・生徒等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な時期に学校説明会を実施し、校外説明会に参加することで、受験生と保護者が必要とする情報を伝える。</li> <li>・説明会等で配付する資料の内容は適切で十分であるか配慮する。</li> <li>・ホームページへの基本的な情報の提供と更新を適切に行う。</li> <li>・生徒等の個人情報の保護に十分配慮する。</li> <li>・学習塾に対し、本校の教育活動について適切に情報提供を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに校内で行う入試イベントの時期、テーマ、内容を決めて実施した。その際、校外説明会を活用してイベントの告知を行い、受験生・保護者の誘導につなげることができた。</li> <li>・各回で配付する資料については、事前に検討を重ね作成した。受験生・保護者にとって必要な情報（本校の教育活動の内容、入試関連データ等）を掲載し、理解を得られた。</li> <li>・ホームページについては、年度初めに基本的な情報を掲載し、以後は学校行事や日々の教育活動の様子を「ニュース&amp;トピックス」という形で随時、発信した。特に、入試イベントの事前に、イベントの概要を掲載することで、受験生の誘導を行った。さらに事後にはイベントの様子を掲載し、くり返し来校する受験生を増やすことに努めた。</li> <li>・ホームページへ掲載する際、または学校案内等の印刷物を発行する際には、生徒の個人情報保護を念頭に、事前に生徒保護者に「承諾書」を配付し、理解・承認を得た後に、円滑に進められた。</li> <li>・入試広報部の担当教員だけでなく、計画的に（年2回）、中・高等部の全教員による塾訪問を実施し、入試直前には管理職・スーパーバイザーを含めた塾訪問を行うことで、塾の講師に本校の教育活動について情報発信ができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生と保護者、塾の進路指導担当者が、本校の教育活動に対する理解を深め、出願・受験・入学へとつなげていくためには、継続して、ダイレクトメール送付や塾訪問による告知・案内を行い、校外説明や学校説明会に誘導していくという流れを作っていく。今後は、一人でも多くの入学者数を増やすために、説明会自体のあり方についてふり返り、内容を十分に検討し実施していく。</li> <li>・ホームページの掲載内容について、教科・学年・部活動と分け、定期的に発信していけるよう、ニュース更新の担当者を明確にして対応していく。</li> <li>・塾訪問についての計画（時期・発信内容等）を立て、継続して実施していく。</li> </ul>



11-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中等部の募集力向上に向けた改革における事務支援が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中等部入試・広報担当教員の業務補佐と支援の充実を図る。</li> <li>・募集人員充足に向け、①学校案内制作、②ホームページ・ブログ等制作、③学校説明会運営、④広報媒体等への交渉、⑤他校入試・広報関連の情報収集、⑥学習塾訪問頻度向上、⑦校外進学フェア運営等の支援活動等を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内制作の支援を行った。学校案内制作会社へのアドバイスと、中等部入試・広報担当教員のパイプ役として制作支援を行った。同時に制作費用の削減に向けた交渉を実施した。パンフレットとしての質の向上を図った。</li> <li>・ホームページの「ニュース&amp;トピックス」への記事掲載支援を行った。中等部の教育活動、生徒の学園生活等を閲覧者に対してタイムリーに、かつわかりやすく提供した。</li> <li>・広報ツールの制作支援を行った。チラシ・交通広告等の制作費、及び媒体使用料等の削減に向けた交渉を積極的に行った。これにより広報予算の有効活用が図られ、告知頻度の向上につなげた。</li> <li>・塾訪問頻度の向上を図った。中等部長、並びに担当教員と連動した学習塾に対する訪問頻度を向上した。告知活動の充実を図り、今後の募集力増強に寄与した。</li> <li>・接続教育推進プロジェクト会議を開催した。幼稚部から高等部までの現状と課題を共有し、各部の戦略的な募集力向上を図った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中等部の募集定員の充足に向け、入試・広報担当教員の支援活動の充実を図る。</li> <li>・計画的な募集活動の補佐に加え、教育活動を効果的に伝える学校説明会の運営の支援等を行い、志願者数の増加を図る。</li> <li>・学習塾に対する告知の増強を図る。塾講師へ中等部の優位性を強く発信する。</li> <li>・初等部・中等部間の進学接続支援の増強を図る。</li> </ul>

## 12. 教育環境整備

12-①	・多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽室、美術・工芸室、調理室、被服室、第1・第2理科室など各施設を有効活用する。</li> <li>・各教室に設置された電子黒板を有効活用する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽室、美術・工芸室は音楽や美術の授業で必ず使用され、活用されていた。また2つある音楽室は、合唱の練習などの際には、パート別に分かれて2カ所とも使用するなど有効に活用された。</li> <li>・技術家庭科では、実習を多く行っているため、調理室、被服室とも頻繁に活用された。</li> <li>・理科室は実験などに多く活用された。</li> <li>・教室の電子黒板は、動画や画像、ホームページなどの視聴覚教材を使用する際に多く活用された。また、パワーポイントを用いた授業や生徒の発表の際にも有効であった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板で使用したコンテンツを、教科内だけでなく、学校全体で共有することで、より充実したものにしていく。</li> </ul>

12-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安全を確保する</li> <li>・施設・設備の機能を維持する。</li> <li>・より快適な環境で生徒が学校生活を送れるよう環境整備を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。</li> <li>・本館東西階段及び東館ピロティにおいてアスベストが使用されていることが判明したため、直ちに除去工事を行った。</li> <li>・前年度に北館1階の改修工事を行ったが、平成28（2016）年度に改めて床改修工事を行った。</li> <li>・本館及び東館の外壁等において、亀裂等がみられ破片落下等を事前に防止するため、補修及び補強工事を行った。</li> <li>・北館各教室にプロジェクターが設置されたが、同時に使用時の教室内照度・採光の環境を改善するため、全教室に新たに遮光カーテンを設置した。</li> <li>・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検等業者への委託による環境整備・安全確保等も行っている。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。</li> <li>・建物診断の結果から今後の保守計画を立て、実施する。</li> <li>・平成28（2016）年度は他の事業を優先した関係で本館等において空調機の更新が計画どおり進まなかった。今後は計画通り進むよう実行する。</li> <li>・北館においてはトイレの洋式化は実施済みであるが、他の棟においては未実施箇所が多いため、今後計画的に改修を進めていく。</li> <li>・委託業務の内容等が実状に合わせたものになるよう見直しを図る。</li> </ul>

12-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な教育活動の目的に適う場所や教材・教具・図書などの教育環境を整備する。</li> <li>・パソコンや情報機器のマルチメディア性を生かし、教育活動の情報化を推進する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習室やマルチメディアラウンジの電子黒板や、情報処理室、マルチメディアラウンジのパソコンも有効に活用されており、図書館では蔵書数や映像教材の更なる充実を図っている。</li> <li>・各教室に設置された電子黒板は、前年度までの英語会話の授業や理科の授業だけでなく、ほぼ全教科において活用されるようになった。自習室については、進路指導部と高等部3年学年団が担当し活用している。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Kamakura Beyond Project」などの活動を考えると、情報処理室とマルチメディアラウンジだけではパソコンの台数が不足している。今後は、計画的にパソコンを増やしていくことを検討している。</li> <li>・教育活動でのパソコンや情報機器を利用した情報化は進んでいるが、利用方法は更なる工夫や開発を検討する。また、それらを共有するためのシステムづくりを進めていく。</li> </ul>

## 13. 事務支援体制

13-①	・ 中等部の教育活動における支援が適切に行われているか。
取組目標	・ 日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。</li> <li>・ 業者支払いの勘定伝票や預り金についての帳票を初等・中等教育支援室で作成することで、事務処理の合理化・厳格化に貢献した。校友会費処理についても、経理部の指導のもと、改善を進めた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も外部との対応に関して、引き続き適切かつ丁寧な対応を心掛ける。</li> <li>・ 預り金の厳格化については、経理部や総務部、各部と連携し、引き続き対応を図っていく。</li> </ul>

## 14. 自己点検・評価

14-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価が年に1回以上定期的に実施されているか。</li> <li>・全教職員が評価に関与しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に当該年度に実施した教育内容全般について振り返り、次年度に生かせるように自己点検・評価を実施する。</li> <li>・自己点検・評価報告書の作成にあたっては、分掌主任を中心に中・高等部の全教職員で行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各点検項目にしたがって分掌主任を中心に、実施した教育内容について細部にわたり取組内容や成果、達成状況を点検することで、次年度の改善につなげることができた。</li> <li>・報告書の作成においては部長・次長と分掌主任を中心に教科主任や学年主任から指示する形で、全教職員が振り返りをし、次年度の工夫や改善に生かすことができるようにした。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者には年度末に執筆を依頼し、次年度の初めまでを期限としているが、成績処理と残務整理に加え、次年度への準備も入る時期であるため、点検項目などは年度の始めに決定し、担当者が実施済のものから点検・執筆していく。</li> </ul>

14-②	・自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・評価の結果を受けて、改善すべき点は次年度に生かす。</li> <li>・取組内容に関して成果が表れているものについては、さらに工夫を凝らして次年度に実施する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果に結びついていない、又は目に見える結果が表れていない教育内容については十分な検討を重ねた上で、代替策を講じることにつながった。</li> <li>・教育内容について細部にわたりその内容の一つ一つを点検することで、明らかに次年度の教育活動に生かすことができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容のなかにはすぐには結果には表れないものがあり、長い期間を経て成果に結びつくものもあるため、引き続き次年度も実施すべき教育内容か否かは十分吟味を重ねていく。</li> </ul>

## 第2章 高等部 自己点検・評価

### 1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置者の示す明確な教育方針（建学の精神）等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神に基づく豊かな人間性の育成を基盤として、新たな教育目標である「自己の感性や価値を高め続け社会で活躍できる女性の育成」について、各分掌、各学年、各教科が有機的に連携しながら、取り組みを進める。</li> <li>・教育目標実現のための3つの力「実践力・思考力・共生力」を授業、学校行事等、教職員が日々行う教育活動のなかに明確に位置付け、絶えず意識できるようにしていく。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標と3つの力については、前年度より学校説明会や学校案内パンフレットなどに建学の精神と併せて明確に位置付けたこともあり、学年の校外行事などで取組目標にするなど、教員生徒双方に浸透を図ることができている。</li> <li>・年度途中からは、初等・中等接続教育担当との連携のもとで、次年度に向けて「豊かな人間性」「確かな学力」「英語教育」の3本柱を新たに位置付け、教育目標と共にその実現に向けた取り組みを進めることができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神は「豊かな人間性」の育成に欠かせないものであり、一方、「確かな学力」「英語教育」は、「自己の感性や価値を高め続ける」ことにつながるものである。ICT、英語、コミュニケーション等のスキルの育成等により、魅力ある学校づくり、受験生に選んでもらえる学校づくりを進める。</li> </ul>



1-②	・学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。
取組目標	<p>①「スチューデント・ファースト」の視点に立った学校運営の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慣習的な活動を批判的に洗い直し、意味のない前例踏襲を徹底的に排除する。</li> <li>・生徒の社会的な自立を促すため、経験や失敗から学ぶ機会を多く設定する。</li> </ul> <p>②学力向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務主任、進路指導主任、スーパーバイザー等で構成する横断的組織「学力向上対策特別委員会」を新たに設置し、各教科、各学年、進学コース、特進コースにおける学力向上の取り組みを一元的に統括する。</li> </ul> <p>③生徒主体型学習への転換に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のモチベーションの向上、活動の活性化が募集状況に直結するという考えのもと、授業、校外学習、行事等あらゆる場面で生徒主体型学習を導入する。</li> </ul> <p>④生徒募集の強化に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塾訪問、中学校訪問の体制、学校説明会の内容を不断に見直し、受験生やその保護者の視点を大切にするとともに、あらゆる機会を通じて本校の新たな教育活動の成果や魅力を強力に発信する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日に部長から全職員に提示する「取組方針」のなかで4つの短期目標を設定した。</li> <li>・「前例踏襲の徹底的な見直し」に関しては、継続的に取り組んできたこともあり、職員の意識改革が進み、意欲的な雰囲気がかかえるようになった。</li> <li>・学力向上対策特別委員会の設置により、前年度設置した学習支援センターとの連携強化、これまで各部署が個別に実施していた長期休業中の講習の一元化、各教科における日常課題の内容精査、課題提出の状況調査など、生徒の現状に即した取り組みを進めることができた。</li> <li>・生徒主体型学習に関しては、外部に対しても導入をはっきりと打ち出したことにより、教員生徒双方に意識化が進み、従来見られたような講義形式一辺倒による授業は影を潜めている。また、体育祭、文化祭などでは、高等部生徒がリーダーシップを発揮し、生徒主体の行事運営が定着してきており、生徒のモチベーションも高い。</li> <li>・新たに設置された初等・中等接続教育担当との連携のもとで、次年度に向けた新しい教育の3本柱の策定、本校独自の英語教育プログラム「鎌倉FITS」の開発を行うとともに、それらをまとめたリーフレットを発行し周知するなど、年度途中から広報活動の強化を図った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上対策特別委員会の取り組みなどにより、学力の中位下位層の生徒の姿勢に大きな改善がみられるようになったが、一方で、上位層の生徒を必ずしも伸ばし切れていない面もみられ、次年度以降、更なる取り組みを検討する。</li> <li>・生徒主体型学習に関しては、教科の特性や教員の力量差などの課題もあり、今後、研修の充実による教員個々の授業力改善に重点的に取り組んでいく。</li> <li>・生徒募集に関しては、前年度よりも約40名多い入学生を確保した。しかしながら、学則定員を常に意識し、より目標を高くもって、学校一丸となって取り組みを進めることが不可欠であると認識している。そのためにも、初等・中等接続教育担当との連携のもと、更なる対策を講じていく。</li> </ul>

## 2. 教育課程

2-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「チェンジ・チャレンジ」を合い言葉に、「自己の感性や価値を高め続け社会で活躍できる女性を育てる」という目標のもと、実践力・思考力・共生力を身に付けるための、生徒主体型学習に取り組む。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動全般において、各教員が「実践力」「思考力」「共生力」を高めるよう意識するようになった。</li> <li>体育祭や文化祭（みどり祭）などの学校行事では、実行委員が中心となって活躍する機会が増え、生徒の主体性が育まれてきた。</li> <li>校外行事では自主性・主体性を重視した現地活動が行えた。</li> <li>これまで受け身姿勢であった生徒が、少しずつ能動的に行動できるようになり、意識の変化が芽生え始めた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>依然として生徒に教え込む教員が見られるため、コーチングなどの手法を各教員が身に付けて指導にあたる。</li> <li>生徒自らが考えて行動できるようにするために、教員の固定された考え方から脱却をはかり、指導方法の工夫・改善を進めていく。</li> <li>教員のスキル向上に向けた、研修会の充実を図る。</li> </ul>

2-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の実施に必要な、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業担当者は、4月初旬までに年間学習指導計画書を作成して教科主任に提出し、スーパーバイザー、次長、部長の点検を受ける。</li> <li>・各学年では、4月初旬に道徳や総合的な学習の時間、ロングホームルームの年間計画を立てる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間学習指導計画表は、全教科全教員が作成した。</li> <li>・年間学習指導計画書は、各学期終了時に「自己評価」や「今後の課題と対策」を記入して提出することで、授業改善に努めた。</li> <li>・ロングホームルームや総合的な学習の時間については、高3を除き現状の行事に向けた準備が中心になり、十分な計画案が作成できていなかった。</li> <li>・道徳教育の内容については、入学座禅、立居振舞講座なども、年間計画に盛り込み、実施した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の授業計画については、授業担当者による計画変更が生じないようにする。</li> <li>・ロングホームルームや総合的な学習の時間については、行事の準備にとどまらず、生徒の主体性を伸ばす取り組みとして計画をしていく。</li> <li>・特に高等部では大学受験を含め進路実現に向けた計画を、進路指導部だけでなく、学年を挙げて取り組む計画を推し進める。</li> </ul>

2-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主に私立大学受験を目標とし、受験科目を重点的に学べるように、3年次の2学期には必要な内容を終え、さらに問題演習の時間も確保する。</li> <li>・ 管理職やスーパーバイザーによる授業参観や教員同士の相互参観を行う。</li> <li>・ 付属校サミットにて、他校の教員も交えて公開授業と授業研究会を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年次より、文系、理系のコース選択を行うことで、歴史や理科において、受験に必要な選択科目を2年間継続して学ぶことができた。</li> <li>・ 学校設置科目の特講授業を設置して、問題演習の時間を増やした。</li> <li>・ 鎌倉女子大学への内部進学者の実力を上げるため、2年次で鎌倉女子大学進学希望者のクラスを設け、学級活動として基礎学力の向上を図った。</li> <li>・ 鎌倉女子大学進学希望者には、高大連携講座や教養講座を設けた。教養講座については、進路変更に対応するためカリキュラム上には置かないが、時間割に組み込んだ講座とした。</li> <li>・ 付属校サミットでは、8つの公開授業を実施し、他校の教員も交えての授業研究会を行った。その内容を報告集にまとめた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各科目において、単位数を増加して丁寧な説明を行う時間及び問題演習の時間を十分取れるように計画しているが、授業時間数の十分な確保には至っていない。</li> <li>・ 今後、授業確保の面から、①慣例的に行われていた中等部入試第一日目、二日目の自宅学習を授業に変更、②体育祭予行練習を短縮し、授業を設定、③合唱コンクール当日の朝、授業を設定、④3学期始業式に授業を設定、⑤みどり祭準備期間を短縮し、授業を設定などの取り組みを通して、授業時間数の最大限の確保に努める。</li> </ul>

2-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習を多面的に評価するために、定期試験の点数以外に、日ごろの学習の取り組み等を評価に加えて評価する。</li> <li>・進学コースと特進コースでは試験問題を原則として分け、さらに目標とする平均点を60±5点と定め、問題の適正化を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験以外に、グループワークや実験や実習、実技試験及び、小テストやレポート等の提出物も評価に加えていた。</li> <li>・各学期の10段階評定や学年の5段階評定の算出にあたっては、教務部で定めた点数の区分表に当てはめて行うため、どの科目においても、同じ100点法の点数であれば、同じ評定が付くようにしている。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験のみの点数をみると、科目による平均点のばらつきがみられるため、平均点を60±5点に近づけていく。そのためには、日ごろから生徒の理解度をよく観察し、出題に生かしていく。</li> <li>・大学受験に備えて、難易度の高い問題も出題しなければならないが、生徒の学力測定に有意な出題になるよう、難易度のバランスに気を付ける。</li> </ul>

## 3. 学習指導

3-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領や設置者が定める基準（学則）にのっとり、学校全体として、生徒の発達段階や学力、能力に即した指導が行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部3年間を見越した各教科の学習指導計画の構築を図り、本校の実態に即した教科教育を行う。</li> <li>・従来型の授業スタイルに固執することなく、生徒主体型授業を導入するなど、より学習内容が身に付くよう生徒の指導にあたる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの手法を導入するなど、教科の特性に応じた学習指導方法を取り、生徒の活発な発言など授業の活性化が認められた。</li> <li>・必要に応じて過年度の学習内容を含めたり、学習内容をより充実する観点から教科書外の内容に言及したりし、基礎学力の定着と学力向上を図った。</li> <li>・従来の板書による授業やプリント学習に加え、電子黒板の活用など、わかりやすい授業を目指した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年入学してくる生徒のなかに、中学校時代の学習内容が十分に身に付いていない生徒が少なからず在籍している現状が明らかになっている。そのため学習支援センターの活用以外にも、過去の復習を取り入れた授業や補習など、基礎基本を身に付ける機会を設けることを検討する。</li> <li>・従来型の講義形式に比べて、生徒主体型による授業は生徒の授業への参加意識が高く、学んだ内容の認識度が良いため、より多くの授業で取り入れていく。</li> <li>・これまでも生徒の興味関心をかきたてる授業を目指してきたが、3年後を見据えて幅広い知識が修得できる授業に努める。</li> </ul>

3-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に改善されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣の確立を図る。</li> <li>・大学受験に備えて、学力の向上を図る。</li> <li>・各種検定試験における目標級の取得を目指す。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のホームルームの時間を利用して朝学習を行うことで学習習慣の確立や基礎学力の定着を図った。</li> <li>・長期休暇中の提出物状況調査を行い、職員間にて情報共有を図ることで、学校全体で未提出物を減らす取り組みができた。</li> <li>・模擬試験だけでなく、校内実力試験を実施することで、現在の実力を知るだけでなく、学習方法の改善や到達目標の設定など、生徒一人ひとりの学力の向上に役立たせることができた。</li> <li>・検定試験の受検を奨励したことで、前年度に比べ多くの生徒が受検した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高6年間で3段階に分け、学齢に応じた、本校オリジナルの週プランを作成した。この週プランを使用することで、学習習慣の確立を図っていく。</li> <li>・中等部から高等部に進学する生徒を対象に、入学してからの学習に躓くことのないよう、課題意識をもって基礎学力の定着に取り組んでもらうための学習ガイダンスを実施する。</li> <li>・大学受験に向けた学習内容や方法を生徒や保護者が理解し、生徒が自ら学力向上に向けた取り組みができるように助言指導する。</li> <li>・各種検定試験における目標級の取得のために、これまで以上にPDCAサイクルを意識した取り組みをしていく。</li> </ul>

3-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中心の授業から、生徒主体の授業への転換を図る。</li> <li>・知識中心の授業から、考える授業への転換を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板の活用をはじめ、従来型の授業からの工夫をはかり、生徒への学習意欲の向上を図った。</li> <li>・机の配列や図書館の活用など、授業内容の目的に応じて柔軟な取り組みを行い、生徒の学習への関わりを強化することができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業目標や進度を踏まえ、限られた時間のなかでの生徒主体型授業の工夫を継続して行っていく。</li> <li>・生徒の学習意欲向上のため、常に学習教材の精選と活用に心がけ、授業の組み立てについて研究を続ける。</li> </ul>



3-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板やタブレット等の新しい機材を、各教員が使いこなせるようになる。</li> <li>・活用事例や講習を参考に、授業に積極的に導入していく。</li> <li>・最終的に、活用事例とその結果を教科で共有し、本校において効果的な活用を蓄積していく。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板の導入により、資料の提示・動画やインターネットの活用等を反映させた授業が日常的に行われるようになっている。</li> <li>・タブレットに関しても、体育のダンスを録画するなど教科で工夫した活用を行い、授業の可能性を広げている。</li> <li>・アクティブラーニングやICT関連の講習会への関心が高まり、積極的に参加する教員が増えている。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンやタブレットは「使用すること」そのものが目的ではなく、使用することにより「授業効果を高めること」が目的であるという視点で、もう一度、使用方法を見直していく。</li> <li>・さらに学力向上への効果を高めるため、e-ラーニングなどを導入し、家庭学習での使い方も考慮して授業を拡張していく。</li> </ul>

3-⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等部からの入学生に図書室ガイダンスを行う。</li> <li>・ 授業担当教諭が授業中に生徒に見せる資料を貸し出す。また、総合的な学習の時間に利用する資料をブックトラックで学年に貸し出す。</li> <li>・ 読書活動の推進としては、新着本案内の掲示をし、図書室利用を促す。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語の1時間を使い、高等部からの入学生に図書室ガイダンスを行った。</li> <li>・ 家庭科、理科、美術、総合的な学習の時間等の授業での利用に対応した。英語コミュにケーションの多読授業用に洋書のブックトラックを作り、貸し出しした。総合的な学習の時間においても、学年へブックトラックでの大量貸出をした。</li> <li>・ 新着本案内の掲示については、年3回本を購入するたびに、生徒の希望図書や話題本の表紙をコピーし、興味を引くようなものを作った。</li> <li>・ 朝の読書や受験対策に活用できるよう、新着の新書案内の教室掲示を作った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書室の計画的利用は、学校全体の取り組みとして対応していく。各教科の要望についても今まで以上に連絡を密にしてサービスの質を上げるよう努力する。</li> <li>・ 新着の新書案内を作成した時期が遅かったため、次年度は4月から高等部1年生から3年生までクラスに掲示できるようにする。</li> <li>・ 高等部は教室と図書室が遠く、なかなか利用機会がないため、新着本案内や朝の読書を利用して、図書室の広報活動をすすめていく。</li> </ul>

3-⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科の授業において、従来のような教員の一方的な講義形式の「教わる学習」から、「自ら学ぶ学習」への転換を図る。</li> <li>・ 各教科の授業ではグループごとに課題に取り組みせたり、討論の場を設け発表させる等して、生徒が抱いた興味・関心がその後の自主的な学習につながっていくようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科の授業において、グループでの共同学習、討論、発表等をできるだけ取り入れるようにし、生徒が自ら気づくことが学びにつながるような授業を実践した。</li> <li>・ グループ討議などは慣れない生徒もいるため配慮することも必要であったが、回数を重ねるにつれ、自ら考えたことを自分の言葉で述べるようになっていった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の学びの姿勢が能動的になったと見受けられる部分は確かにある反面、教科書の内容をこなさなければならないことを考えると、時間が足りない現状もある。</li> <li>・ 自らの気づきによる学びという基本的な考え方のもと、1つの授業時間のなかで講義、質問、グループ討議など様々な授業形態を複合させるなどの工夫をしていく。</li> </ul>

3-⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事、体験活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の体験や運営を通して、思考力や実践力を身に付け、感動や達成感が味わえるようにする。</li> <li>・生徒の安全を第一に考え、起こり得る危険を想定し、対処できる準備を整理しておく。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり祭や卒業生を送る会などの学内行事では、各実行委員が担当教員と連携を図り、リーダーシップをとることで、生徒主体の有志企画が年々充実してきている。自主性や積極性を発揮し、得意分野を様々な形で表現する生徒が増えた。</li> <li>・宿泊等の学外行事では、自然災害時の対応、最寄りの医療機関等を事前に保護者に示し、健康状態の調査を行うなどして安全に留意して実施した。また、行程は数か月前から業者と打ち合わせを重ね、時間的に余裕を持った見学や体験活動ができるよう計画した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外行事の実施にあたっては、今後も生徒の安全に注意を払い、様々な側面から考え、細かく計画していく。又、状況を判断し臨機応変に対応をしていく。</li> <li>・本校の良さを残しながらも、より生徒主体での行事運営ができるよう、新しいことにも積極的に挑戦する姿勢を持つ。</li> <li>・実行委員のみならず、より多くの生徒が積極的に意見を出したり、自発的に参加したりできるよう改善を図る。</li> </ul>

3-⑧	・生徒会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級委員会では、学校行事の一部を委員会で企画・運営を行う。</li> <li>・保健体育委員会では、保健体育関係の活動の運営・補佐を行う。</li> <li>・文化委員会では、「学校新聞」の発行を行う。</li> <li>・美化委員会では、校内及び周辺の美化活動を統括する。</li> <li>・ボランティア委員会では、各種募金活動やボランティア活動を統括する。</li> <li>・体育祭実行委員会では、体育祭の企画・運営を行う。</li> <li>・みどり祭実行委員会では、みどり祭の企画・運営を行う。</li> <li>・合唱コンクール実行委員会では、合唱コンクールの企画・運営を行う。</li> <li>・卒業生を送る会実行委員会では、卒業生を送る会の企画・運営を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28（2016）年度より常任委員会は前後期制をとり、活動期間を長く設定し生徒の主体的活動がしやすいようにした。</li> <li>・学級委員会では、4月21日に新入生歓迎会を行った。また、みどり祭でも実行委員とともに企画・運営を行った。</li> <li>・保健体育委員会では、次年度に向けて球技大会の企画を練った。</li> <li>・文化委員会では、年度末に「学校新聞」を発行する計画であったが、諸般の事情で発行を見送った。</li> <li>・美化委員会では、校内の美化を促進するための方策を検討した。また、校内外の花壇の整備を行った。</li> <li>・ボランティア委員会では、あしなが学生募金活動への参加、ペットボトルキャップ回収、青少年健全育成推進街頭キャンペーンへの参加、赤い羽根共同募金運動への参加等、様々な活動に参加した。</li> <li>・各実行委員会では、5月14日体育祭、9月17、18日みどり祭、1月26日合唱コンクール、2月23日卒業生を送る会を実施し、成功させた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度から放課後の時間に毎日、学習支援センターが学年別に行われるようになるため、放課後に全学年集まっての委員会活動はできなくなる。そのため、昼休み等を使ってランチミーティングの形で委員会を行う。短い時間で効率的な活動をしていく。</li> </ul>

3-⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制の下に積極的に実施されているか。</li> <li>・部活動が、教職員全体の協力体制の下で実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止、事故発生時、事故後についての対策を事前にまとめ、まずは事故が起こらない工夫をし、万が一のときには速やかに安全対策や応急手当ができる準備を整える。</li> <li>・安全に楽しく活動ができるように、活動時間や活動場所、活動内容を定める。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「校友会・事故防止のための安全対策」を校友会各部で作成し、安全や事故防止に配慮して活動できるようにしている。また、万が一事故などが起きた時には、速やかに対処できるような準備をしている。</li> <li>・部活動ごとに週休日を設け、体力面・学習面・安全面に留意して活動を行っており、大きな事故を起こさずに活動ができた。</li> <li>・活動中は、できる限り顧問が監督できるよう、特に運動部では顧問を2名以上配置している。職員会議など、職員不在の時は、活動内容を工夫し安全性の高いものを行うか、活動自体を自粛している。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、事故を防止するために横のつながりや生徒の自発性を高めて、より安全に活動できるように工夫や改善を進めていく。施設や備品の破損は、放置すると二次災害の危険性もあるため、速やかに修理若しくは廃棄を行う。</li> <li>・可能な限り活動中に顧問が監督できるようにしているが、公務の都合などにより顧問不在の場合もある。その際は、活動場所が同じ別の校友会顧問と協力をし、万が一の場合には速やかに対処・連絡が取れるように工夫しているが、特別講習や委員会活動など放課後活動を整理し、担当顧問が直接安全管理できる体制を整えていく。</li> <li>・中・高等部の組織として、部活動を教育活動の一部という認識を教員が持ち、生徒の実践力・思考力・共生力を育むために、互いに協力できる雰囲気を作っていく。</li> </ul>

3-⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の質問に対応する個別指導や各種講座を学習支援センターにて実施することで個別指導及び補充的な学習の役割を果たす。</li> <li>・各講習を実施することで発展的な学習及び補充的な学習の役割を果たす。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援センターを予約制にすることで、利用者に対するきめ細かな指導を行うことができ、前年度と比較すると利用率を大幅に増加させることができた。</li> <li>・各学期に学習した内容の確認を行い、基礎学力の定着を図るために、定期試験前の対策講座だけでなく、定期試験後のフォロー講座を設置した。定期試験フォロー講座では苦手分野の克服をはじめ、新学期から意欲的に学習に臨めるようにした。</li> <li>・各講習の目的や位置づけを整理することで、学習支援センターとの差別化を図ることができ、よりいっそうの学習効果をもたらすことができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援センターの利用率を増加させることができたが、利用者に関しては固定化されてきた印象にある。そのため、多角的な視点に立って使いやすさを追及していく。</li> </ul>

3-⑪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部各学年の理科における実験・観察においては安全を第一に、教科担当の他に実験助手がつきチームティーチングで実験・観察指導にあたる。</li> <li>・英会話の授業では各学年ともネイティブの教員に英語科担当がつき、授業の進度や生徒の理解度に合わせて英語科担当がフォローに入るようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の実験・観察においては各班や個々の実験進度に応じて、授業担当者だけでは見きれない部分を実験助手がサポートに入ることにより、生徒が方法や手順を理解しながら時間内に実験を進めることができた。</li> <li>・高等部2年の理科課題研究では農園を活用する授業で、鍬等の農機具も使用するため、チームティーチングで生徒の動きに目を配ることができた点は安全面において大変良かった。</li> <li>・高等部3年の理系生物では教員2名と実験助手の3名体制で解剖実験を行い、各ペアでの実験進度を把握できたことで効率良く進めることができた。</li> <li>・英会話ではチームティーチングの形態での授業を以前から行っており、授業の進め方などは英語科のなかで確立されつつあり、学習効果は上がっている。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科実験、英会話の授業におけるチームティーチングは概ね良い成果がでていたため、今後も同様の授業形態で行っていく。</li> </ul>



3-⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。</li> <li>・幼稚部との連携に関する取組がなされているか。</li> <li>・初等部との連携に関する取組がなされているか。</li> <li>・中高連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部、初等部、中・高等部においては、行事や授業等の機会を通して可能な範囲で連携しつつ教育活動を推進する。</li> <li>・幼稚部と高等部において、美術の授業において連携を図る。</li> <li>・初等部と高等部ではみどり祭を1つの機会として、高等部をより詳しく知ってもらえるよう校友会紹介や教科の展示等を通じて連携を図る。</li> <li>・中等部、高等部においてはそれぞれの発達段階を踏まえ、教科では中等部での学びが高等部につながるように配慮するとともに、校友会活動や各行事においても学年ごとの役割をもたせた上で上級学年につなげる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併設校3部では可能な範囲で、連携をとることができた。</li> <li>・マーチングバンド部が幼稚部の運動会で演奏・演技を披露した他、高等部3年生が教養美術の授業で制作した自主教材を使って幼稚部の園児とふれあう絵本の読み聞かせ企画を実施し、実践的な学びを得ることができた。</li> <li>・初等部とは入試広報担当者による教員向けの説明会及び保護者向けの説明会を実施した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26（2014）年度までみどり祭で行われていた、バスケットボール部や児童文化部と初等部生との交流が、みどり祭が別日程になったこともあり、できなくなってしまったことが課題である。どのような機会に校友会の生徒と初等部の児童との交流ができるかを模索していく。</li> </ul>

3-⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいて大学との連携を図る。</li> <li>・鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座及び進学が決定した生徒のための入学前集中講座を通して、円滑な接続を図る。</li> <li>・みどり祭において大学の学友会と高等部の校友会との連携を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいては予定どおり連携することができた。</li> <li>・高等部3年生が通年で授業を聴講できる高大連携講座及び進路別に講義を受講できる入学前集中講座を実施した。</li> <li>・大学のみどり祭においてマーチングバンド部とフェアリーコンサート部が演奏・演技を披露した他、中・高等部のみどり祭ではフラダンス等いくつかの学友会が演奏・演技を披露し、会場を盛り上げた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習における学生の評価については、情報を共有する過程を通して、より連携を図っていく。</li> <li>・高大連携講座は通年で受講でき、単位を先取りできるという面で併設校のメリットとなっているが、次年度は鎌倉女子大学進学希望者のクラスが高等部3年生になるため、単位認定されない生徒がいないように、目的意識を持たせて将来につなげられるように指導する。</li> </ul>

## 4. キャリア教育（進路指導）

4-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教職員全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりが、自らの強みを意識しながら学校生活を送り、進路学習を進めることができるようにする。</li> <li>・生徒一人ひとりが、自らの強みや適性役割を意識した、進路選択やキャリアデザインができるようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活における役割ニーズや社会が要請する役割ニーズを、進路ガイダンス、進路通信、学年行事、学級活動を通じて提示し続けた。その結果、自らの強みを考慮した進路選択を考える傾向が強まった。</li> <li>・2年生や3年生では、具体的な学部・学科選択を行う際に、自らの強みや適性役割を考慮した選択を行うように促した。その結果、苦手回避の選択を行う生徒は減少してきた。</li> <li>・学年集会や進路ガイダンスを通じて、キャリアデザインの考え方や進め方をレクチャーして、目的を持った進路選択を行うように促した。その結果、安易な進路選択をする生徒が減少した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの強みを考慮した進路選択までの過程を更に詳細に把握して、どの情報をい都度のように提示すれば良いか検討を継続していく。</li> <li>・自己決定理論に基づいて進路選択で明確な目的を意識するように、キャリアデザインの考え方や進め方のレクチャー内容を検討する。</li> </ul>

4-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。</li> <li>・職場体験や就業体験が適切に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりに自らの強みと、その強みを生かした学びが、学校や組織、地域、社会のニーズに対してどのような形で貢献できるか考えさせる。</li> <li>・社会で活用する知識やスキルと大学などにおける学びとの関係性や、その土台となる高等学校における学びとの関係性を理解させる。</li> <li>・看護体験や職場体験などに参加させ、職業との適性や必要とされる知識やスキルを理解させる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンスなどを中心とした進路講演会を通じて、組織や地域、社会において必要とされる知識やスキル、ロールモデルを繰り返し伝え、自らが組織、地域、社会に貢献するとはどのようなことか、どのように貢献できるかを考えさせた。その結果、進路選択の理由が曖昧な生徒が減少する傾向にある。</li> <li>・大学訪問などで、実際の大学の学びと社会で活用する知識やスキルの関係性や、高等学校の学びが大学の学びの土台になっていることを、実際の大学生の事例などを通じて学ぶ機会を設けた。その結果、大学訪問やオープンキャンパスで学生に具体的な質問をする生徒が増えてきた。</li> <li>・将来資格職を目指す生徒には特に積極的に職場体験に参加させ、適性を判断したり、高等学校での学びをどのようにしていくべきか考えさせた。その結果、イメージだけで職業選択をしていく生徒が減少傾向にある。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織や地域、社会において必要とされる知識やスキル、人物像を繰り返し伝える方法については、座学だけでなく、企業インターンなどの体験的な取り組みも取り入れ、今後は本校独自の体験的取り組みを検討していく。</li> <li>・職場体験などを通じて職業に対する適性を考え、訪問先の方から適性有の評価をいただいた生徒が、入試において適性に対して疑問視される事例について、検討していく。</li> </ul>

4-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の能力・適正等の理解のために必要な個人的資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面談、三者面談による情報収集と、生徒への助言・指導を行う。</li> <li>・進路希望調査を実施し、必要な大学の情報収集を行う。</li> <li>・職業体験やインターンシップへの参加による適性の把握を行う。</li> <li>・模擬試験による学力情報の収集と学習スキルの把握をし、帳票返却による学習スキルに関するPDCAサイクル指導を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面談や三者面談において、志望進路の方向性や志望理由を把握し、情報収集の方法の提示や、適性を考える機会の提示を行った。その結果、各自で情報収集を行い、次回の面談への繋がりが明確となった。また、キャンパス訪問時に授業体験や活動体験をすることで、志望進路に対する適性を考え、生徒自身の学びを振り返る契機となった。ただし、適性を考える機会を進路変更と等価と考えることがないような配慮も同時に行った。</li> <li>・進路希望調査の記入に必要な大学の情報を収集することを通じて、生徒の情報収集力と情報活用力が向上した。また、担任や進路指導部が、生徒の収集した情報の偏りを見ることで、進路学習方法の傾向を把握し、情報の再収集の指導を行うことができた。</li> <li>・職業体験やインターンシップに参加し、振り返りの実習ノートを記入させた。その結果、生徒自身が志望進路の適性や必要な学びを考える契機となった。また、教員が実習ノートを見ることで、生徒の適性に関する強化部分や必要な学びを指導することができた。</li> <li>・模擬試験の帳票返却の際に学習に関するPDCAサイクルを考えさせることで、生徒も教員も学習方法の偏りや、不足している学習スキルを把握することができた。その結果、目標校に対する学習内容の偏りや学習方法の偏りを修正し、不足している学習スキルや学習内容を指導することができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAサイクルの見直し期間は生徒により、様々であるため、模擬試験の帳票返却時以外の指導時期の検討を継続する。</li> </ul>

4-④	・進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面談などを利用して、進路学習意識の向上と文理選択や進路の方向性の検討への助言を行い、本人の決定を促す。</li> <li>・二者面談や三者面談などを通し、模擬試験の帳票などの学習情報を利用して学部・学科選択や志望校選択に関する助言を行い、本人と家族での決定を促す。</li> <li>・放課後に進路指導部の担当者による、キャリア・カウンセリングを実施する。</li> <li>・キャリア・カウンセリングに関する知見やスキルについては、進路指導主任がキャリア教育学会認定のキャリア・カウンセラー資格を取得しており、研修会等に参加して情報収集して、必要に応じて教員に情報伝達する。</li> <li>・キャリア・カウンセリングに関する技法について、教員からの相談に進路指導主任が対応する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンスで伝えた、進路学習の必要性や具体的学習内容を踏まえ、二者面談では、個に応じた進路学習方法を提示し、生徒本人に文理選択や進路の方向性を考えさせた。その結果、大学訪問やオープンキャンパス訪問時、大学のホームページなどの情報誌利用時に、進路学習の内容を踏まえた情報収集などができるようになってきた。</li> <li>・模擬試験の帳票やベネッセの大学検索ソフトを利用して、科目の適性や志望者順位などを考慮した学部・学科選択や、志望校選択に関する情報を提供し、保護者や生徒自身に学部・学科や志望校を決定させ、自己決定意識の高い進路選択を行うよう促した。</li> <li>・放課後の進路指導部の担当者によるキャリア・カウンセリングでは、入試状況や将来のキャリアデザインを踏まえた入試相談や、生徒の適性を踏まえたキャリア構築の相談を受けた。その結果、学部・学科選択や大学選択に生徒の主体性が芽生え、自らのキャリアデザインを意識した学部・学科や受験校選択を行う生徒が更に増えた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面談において提示する進路学習の方法について、研究会等で得られた情報の学年団への提供方法を更に検討していく。</li> <li>・生徒が進路の方向性、文理選択、学部・学科選択、大学選択などを自己決定できるための情報提供を更に充実させる。</li> </ul>

4-⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア学習に関する相談について進路相談室を利用して行う。</li> <li>・高等部校舎の1年生から3生までのフロアに掲示板を設置し、大学の公開講座や入試情報分析会のお知らせなどを掲示する。</li> <li>・自習室に入試に関する問題集や各大学の赤本などを配架し、受験準備のサポートを行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な進学先に関する相談など、模擬試験の結果や大学に関する各種情報が必要な相談を行う際には、プライバシーに配慮して進路相談室を利用し、充実した情報提供を行った。また、受験期の心理的不安を解消するために、キャリア・カウンセリングなども行った。その結果、具体的な情報を提供し、不安を吐露する機会を得ることができたため、心理的に安定して受験準備に取り組むことができた。</li> <li>・進路相談室を生徒が利用したい時に、教員に声をかければ利用できるようにした。</li> <li>・掲示板上による講座情報や入試情報を提供することで、大学に関する情報収集の機会を増やすことができた。また、低学年であっても、早い段階から個別に大学訪問を行ったり、入試情報に触れることで、進学に関する意識を高めることができた。その結果、前年度に続き1年生の段階からオープンキャンパスに積極的に参加する生徒が増えている。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示板上やクラスの掲示板上に掲示する内容を更に厳選し、大学に対する興味を持って進路学習ができるようにしていく。（生徒の状況に応じて継続して検討）</li> <li>・生徒の希望を聞きながら、自習室の配架本を更に充実させたい。また、受験準備に対してより意識が高まるような仕掛けを考えていく。</li> </ul>

## 5. 生徒指導

5-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教職員全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導計画に基づいた生徒指導を行う。</li> <li>・職員会議において各学年の生徒状況を報告し、生徒の状況について共有する。</li> <li>・生徒指導事案について、全教職員で共有できるシステムを考案する。</li> <li>・生徒指導部からの細かい生徒指導に関することを即時的に連絡し、各学年で対応がしやすいようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに生徒指導計画を全教職員に配布し、指導の重点目標を共有した。それが各学年ごとの生徒指導の指針となり、指導の一貫性を保つことができた。</li> <li>・職員会議で、各学年から生徒の状況報告が毎月実施され、特別な指導を要する生徒に対して、教職員全体で対応できるようになった。</li> <li>・特別指導案件のデータベースを作成し、求めがあれば教職員内での開示を可能とした。</li> <li>・学校グループウェアが定着し、生徒指導部からの諸連絡が徹底されるようになった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校改革が進められていく中で、学校に求められる生徒指導のあり方に変化が生じてきている。そのため、生徒指導計画の抜本的な変更について検討していく。</li> <li>・職員会議での生徒状況報告では不足する詳細情報等をまとめるデータベースを整備していく。と同時に、守秘義務情報の漏洩、データの保管方法等についても検討していく。</li> <li>・学校グループウェアによる情報共有は定着しつつあるが、その情報の重要度は教員により異なる。各教員の個人差に対応した新しいグループウェアも検討していく。</li> </ul>



5-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか。</li> <li>・スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりの生活状況の共有を行い、生徒の心理的な変化に迅速に対応する。</li> <li>・報告、連絡、相談を行うことで、学年単位、学校単位で生徒の心のケアを行う体制を整える。</li> <li>・生徒が教育相談室を利用しやすくなる雰囲気を作るため、職員室との連絡体制をより緊密なものとし、教員が積極的に相談するようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に一回、スクールカウンセラー、養護教諭、学年主任などが集まり、各学年の生徒の情報を共有することで、注意深く見守ることができた。</li> <li>・スーパーバイザーの協力も大きく、学年・学校単位で情報が共有できた。</li> <li>・カウンセラーまで事案を進めることなく、学年や保健室で生徒への対応ができた。</li> <li>・カウンセラーと連携を取り、情報提供がこまめに行われているため、迅速な対応ができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセラーからの情報が、担当教諭や学年主任までに止まり、他の教員が十分、生徒状況を把握できていないケースが見られた。対応に留意すべき生徒の情報について、教員間で共有できるようにしていく。</li> <li>・教育相談の場では、特定の生徒の情報が中心となっているため、他の生徒の情報についても確認していく。</li> </ul>

5-③	・生徒の問題行動の状況を共有し、適切に対処できているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の特別指導等についての記録は、パソコンで一元的に管理する。</li> <li>・重大な問題行動が起こったとき、教職員間での速やかな情報共有を行う。</li> <li>・学年・生徒指導部・管理職での情報の伝達を円滑に行い、最善の対処を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の特別指導案件について、パソコンで一元管理することができた。その結果、特別指導案件の特徴や傾向を概括的に把握することができた。</li> <li>・重大な問題行動が起きた場合に、内容に応じて学年会議や分掌会議、臨時職員会議を開催し、教職員に速やかな情報共有することができた。</li> <li>・生徒指導部が中心となり、各学年と管理職、または外部機関等とも連携をとりながら、生徒指導案件に対応することができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の大きな問題行動は、減少の傾向にある。一方、家庭での問題や生徒自身の内面の問題が重大化している傾向がある。家庭での問題にはなかなか踏み込めない場合も多いが、二者面談や三者面談等だけでなく普段の生徒との会話を通じて、包括的に対処していく。</li> </ul>

5-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる生徒を育成するための指導を行っているか。</li> <li>・相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる生徒を育成するための指導を行っているか。</li> <li>・社会の一員としての意識(公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど)を身につけた生徒を育成するための指導を行っているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自発的に考え、行動する機会を増やし、思考力や実践力を高める。</li> <li>・グループ活動等の体験的な学びと教員からの指導を交えて、奉仕の精神や公德心などを養い、互いを認め合い、高め合う雰囲気を構築する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業においてはアクティブラーニングを取り入れ、また、みどり祭や卒業生を送る会などの行事を生徒主体で行い、自発的に考えて行動する機会を確保した。その結果、積極的な思考・発言が身に付いてきている。実行委員を中心に、自主的に計画して実行し、全体の運営を成功させたことで、生徒主体の活動に対する意欲が高まった。</li> <li>・校外学習や宿泊行事において、グループでの共同作業を行った結果、級友たちと互いに認め合いながら協力しあって物事を成し遂げる力や態度が育成された。</li> <li>・学級や委員会等の活動を通じて、個人が責務を果たすことの大切さを説き、一人ひとりが自身の役割を果たせるよう指導した。その結果、自分の分担箇所だけで終わらずに他の分担場所を手伝ったり、更に細かな部分まで丁寧に組みんだりする自主的な姿勢や奉仕の精神が高まった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的、体験的な活動に参加する生徒が限られてしまうことが課題であり、自主・自立、社会の一員としての意識を養うために、より多くの生徒が意欲的にかかわれる場を設定することが必要である。そこで、授業におけるアクティブラーニングを、研修や教材研究によって、さらに充実させ、また、平成28(2016)年度より始めた企業活動を取り入れたプログラム「Kamakura Beyond Project」を活用して、生徒が学年を越えて活躍できる取り組みの充実を図る。</li> </ul>

## 6. 保健管理

6-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法定の学校保健計画が作成され、適切に実施されているか。</li> <li>・生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談が適切に実施されているか。</li> <li>・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健計画を作成し、適切に実施する。</li> <li>・生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。</li> <li>・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断を適切に実施する。</li> </ul> <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健計画を作成し、適切に実施する。また、時期や取り組みが適切であるかについての検討も行う。</li> <li>・生徒の保健管理、保健指導、保健相談を、年間を通して適切に実施する。</li> <li>・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、また健康診断についても追加項目を含め適切に実施する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室と各教科指導の連携により、学校保健計画を速やかに作成し、計画に沿った保健指導を実施することができた。</li> <li>・職員室、保健室、教育相談室を中心に、保護者とも連携を取りながら保健指導、保健相談を行うことができた。</li> <li>・クラス担任、学年主任、教科担当者と保健室が連携して日常の健康観察や心のケアを行った。</li> <li>・年2回の体位測定を始め、年初の健康診断など、適切に実施することができた。</li> </ul> <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健計画を作成し、計画に基づいて実施した。また、予防接種歴の再確認について、追加事項として実施した。</li> <li>・保健管理、保健指導、保健相談に関しては、関係教職員で情報共有を行い、必要に応じ保護者との面談など連携を図った。</li> <li>・生徒、職員へ教室の換気の徹底を行うことで、感染症の蔓延防止及び、学習環境保持に努めた。</li> <li>・欠席情報を把握し、感染症の発生を早い段階で掴み、感染拡大を防ぐための対応を図った。</li> <li>・健康診断、年2回の体位測定、保健講話、色覚検査等の保健行事を、担任や学年主任、教科担当者と連携して実施し、適切な事後措置を行った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科による保健指導は、教科の単元に応じた保健指導が中心となるため、各</li> </ul>

	<p>教科の横のつながりを更に深める。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・担任は日々の業務のなかで生徒とかかわることができる時間が十分に取れていない現状にある。放課後や休み時間をもっと生徒と過ごせるような、業務体系の抜本的な改革に向けて検討する機会を作っていく。</li></ul>
	<p><b>【保健センター】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・保健指導の点から、健康診断の受診勧告について、早期受診 にむすびつけるため、様式等の変更を検討する。</li><li>・感染症対策で設置している物品について、点検及び補充を行い、管理運営に努める。</li><li>・生徒の健康情報について、学校行事前に保護者と面談を行い、確実な情報把握と教員間での共有に努める。</li></ul>

## 7. 安全管理

7-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているか。</li> <li>・学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。</li> <li>・校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全計画を作成し、適切に実施する。</li> <li>・学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成し、活用する。</li> <li>・校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組を定期的に行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全計画を作成し、それに則って教育活動を行うことができた。</li> <li>・「防災・防犯マニュアル」を作成し、全校生徒に配付し、防災教育及び防犯教育に活用した。</li> <li>・部活動ごとの活動の特性を鑑みて「各部事故防止対策」を作成し、それに則った活動を行った。大きな事故や怪我はなく、活動できた。</li> <li>・校舎の安全点検について、各場所の責任者を設定し、定期的に点検を行った。また、週番の活動のなかでも毎日点検項目を設定して、実施している。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路の安全点検については、バス停周辺での安全指導等を行っている。</li> <li>・徒歩で下校する生徒が少ないため、あまり想定していないが、本郷台方面の通学路についても調査・研究していく。</li> </ul>

7-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防火・防災計画を整備した上で、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。</li> <li>・各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回、防災訓練内で消火器取り扱い訓練と屋内消火栓取扱い訓練を各1回行った。また、教職員対象の救命救急講座を1回実施した。</li> <li>・中・高等部独自の「防災・防犯マニュアル」を発行することにより、生徒だけではなく保護者に対しても、防災に関する心構えや基本行動の周知を行うことができた。</li> <li>・防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、生徒の災害時の食事に対する意識を高めた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面を想定し、併設校各部や総務部、管轄消防署と相談を行いながら、生徒や保護者も含めた有事に対応できるような訓練を今後も継続していく。</li> <li>・特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、幼稚部や初等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。</li> </ul>

## 8. 組織運営

8-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員との対話を重視し、意思の疎通を心がける。</li> <li>・教職員の意見や相談には真摯に応えるなど、良好な職場環境を心がける。</li> <li>・あらゆる教育活動において、管理職から適切な助言を呈する。</li> <li>・学校運営の方向性を示し、策定した教育ビジョンの実施に取り組む。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職は、全教職員との面談を実施したり、学年・分掌主任などとの話し合いをしたりすることで、意思疎通が図られ、信頼関係が得られた。</li> <li>・教育活動全般において、管理職の適切なリーダーシップにより、教職員の一体感が生まれた。</li> <li>・教育活動への助言が有効に働いた。</li> <li>・策定した教育ビジョンが浸透し、教育活動に変化が見られた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員と管理職の信頼関係は十分に築かれており、今後も継続に努める。</li> <li>・部長、次長のリーダーシップのもと、教職員一人ひとりが学校経営に携わっていることを自覚するよう、いっそうの意識改革を進めていく。</li> <li>・策定した教育ビジョンの完成には時間が必要なため、今後も継続していく。</li> </ul>



8-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教員が各校務分掌のいずれかに所属し、組織的な学校運営を行う。</li> <li>・各主任は、校務が確実に遂行されているかを適宜チェックする。</li> <li>・前例踏襲を見直し、より良い学校運営を目指す。</li> <li>・管理職との連携を密にし、的確さを欠くことのないように配慮する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全員が校務を担うことで、学校運営への参画意識が強化された。</li> <li>・組織的な校務運営の形態が定着し、各分掌主任は、分掌担当者への調整や助言を行った。その結果、ほぼすべての校務内容を着実に遂行することができた。</li> <li>・長年の仕事をそのまま踏襲する傾向に対して、管理職からの指示により改善を促し、その成果があらわれてきた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来から継続されている校務の内容や方法が見直され、教育目標に即した内容への見直しが図られてきたことを今後に継続する。</li> <li>・組織としての機能は果たしているが、教職員の意識には依然として軽重がうかがえた。分掌主任による指揮を高め、仕事内容の質的向上に努める。</li> <li>・管理職への相談は非常に多く、学校運営の方向性は一致していると考えられるが、さらに個々の教員の資質向上を図り、学校の運営を確固たるものとする。</li> </ul>

8-③	・職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議、職員会議のほか、分掌会議、学年会議を定例化する。</li> <li>・運営会議での合意を踏まえ、職員会議での指示、伝達を確実に実施する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事予定に学年会議や分掌会議を位置づけたため、会議の定例化が図れた。</li> <li>・必要に応じて臨時の運営会議や職員会議を開き、教職員への意思疎通を図ることができた。</li> <li>・事前の資料配付等により会議の内容を周知することで、円滑かつ有意義な会議への転換が図れた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議による組織の活性化が図られているため、定例の会議以外にも、必要に応じて随時開催する。</li> <li>・会議の内容を事前に周知することが有効であったため、今後も同様に進める。</li> <li>・学年会議、職員会議等において、教職員全体で共有した情報は生徒指導等の教育活動に生かされており、今後も情報共有を続けるよう努める。</li> </ul>

8-④	・各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理され、また、情報の取扱方針が教職員に周知されているか。
取組目標	・職員の守秘義務の徹底を図る。 ・個人情報に関するすべての事柄の取り扱いは、慎重かつ適正に扱う。
取組内容 と成果	・個人所有の情報機器の使用及び、デジタルデータの持ち出しを禁止することで、情報の漏洩を防いだ。成績処理を持ち帰らずに行うことを励行した。 ・生徒の氏名や住所、成績等一切の個人情報は、教務部で一元管理されている。
今後の課題 と改善策	・今後も引き続き、個人情報管理の徹底に努める。

## 9. 研修（資質向上の取組）

9-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究については年に2回、6月と11月の学習月間に授業公開週間を設け、中・高等部の教員同士だけでなく、初等部の教員も授業を参観し、授業改善につなげる。</li> <li>・授業形態は従来の一斉に行う講義形式の「教わる学習」からアクティブラーニングをはじめとした「自ら主体的に学ぶ学習」に転換を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開週間が1週間あり、この期間を使い他教科の授業を参観することになっており、初等部にも公開した。</li> <li>・平成28（2016）年度は11月に中・高等部で「附属校サミット」があったため、研究授業は来校された多くの教員に公開することができ、参観後のディスカッションやアンケートでは好評価をいただくことができた。</li> <li>・どの教員もグループでの共同学習、討論、発表等をできるだけ取り入れるようにし、生徒自らの気づきが積極的な学びにつながるような授業を実践した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までも教科会等を利用してそれぞれの授業方法については意見交換や討論を行ってきたが、今後は教科ごとにさらにディスカッションをする機会を設ける等して授業改善につなげていく。</li> <li>・各教科ともグループワークやペアワークを取り入れたり、討論・発表の場を設ける等して生徒の主体的な学びを促す授業を実践しているが、高等部においては受験学力を付けることも意識し、教科書の内容も早めに終える必要があるため、演習とのバランスをとりながら行っていく。</li> <li>・生徒の学力向上のために、教材研究、専門分野の研究、入試問題研究を通して、教員自身の授業力の向上を図っていく。</li> </ul>

9-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の課題が適切に設定され、実施されているか。</li> <li>・教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善をキーワードに校内研修・校外研修ともアクティブラーニングを紹介した講座、進学実績向上を目指した教科や分掌ごとの研修など、幅広い研修に参加することを促していく。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの教員も教科や所属している分掌の研修は積極的に参加し、特に教科においては生徒主体型の能動的な授業への転換を紹介する研修に参加した。</li> <li>・各分掌の研修では入試広報部が募集力を高める成功事例としてある学校の方策を学ぶことができた他、進路指導部では合格実績を伸ばしている学校の事例を参考にする等、研修内容は大変参考になっている。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各研修に参加する際、午後の空き時間を利用して出張することが多いため、午後に選択教科の授業が入っている場合は時間割変更が難しく研修に参加できないこともある。また、週休日との関連で担任の代わりにホームルームに行く場合、出張に出られない状況もある。学年や分掌で交代するなど、多くの教員が研修に参加できる環境を整えていく。</li> </ul>

9-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか。</li> <li>・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観日や授業公開週間だけでなく、平素の授業においても部長、次長、スーパーバイザー、教科主任が授業観察を行い適切な指導にあたる。</li> <li>・授業観察で把握できた教員の不適切な指導については、スーパーバイザー、教科主任が担当教員に助言する他、改善がなされるまで次長、部長が指導にあたる。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業観察の結果はスーパーバイザーや教科主任から担当教員にフィードバックされ、指導上の留意点・改善点が詳細に伝えられた。その後確実に改善されているか否かの確認を部長、次長が行った。</li> <li>・指導が不適切と指摘を受けた教員も、授業内容や方法はかなり改善され、目に見える形で表れている。また、生徒の授業アンケートを実施し、生徒の要望をくみ上げる機会を設けた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平素の授業観察が定期的に行えるようにするため、スーパーバイザーの持ち時間数がある程度調整していく。</li> <li>・指導に問題が見受けられた教員に対しては、改善された内容を随時確認するとともに、教科内での研修や外部研修も活用して質の高い授業が生徒に提供できるようにする。</li> <li>・教員に対する適切な指導・助言の体制については、部長、次長、教科主任を中心とした指導及び教科内の教員同士の助言へと移行できるようにしていく。</li> </ul>

## 10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が学校運営に参画し、協力できる体制を整えているか。</li> <li>・教育ボランティアを集めるシステムができているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が行事等を通じて、学校運営に協力できる体制を整える。</li> <li>・必要に応じて外部の教育ボランティアの協力を得られる体制作りを検討し、その基礎を構築する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり祭の保護者企画は、前年度に引き続き保護者の自主的な活動が見られ、大変有意義なものとなった。</li> <li>・総合的な学習の時間において、外部の教育ボランティアを活用しながら企業インターンへの取り組みを行った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり祭の保護者企画は、今後も継続的に行うことで、保護者との連携を密にし、学校と保護者の協力体制を作る場として今後も有効である。</li> <li>・実際に外部の教育ボランティアの活用をするために、今後更なる検討や準備を行っていく。</li> </ul>

10-②	・学校公開を定期的に実施しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観や運動会等の行事を通して、学校公開を定期的に行う。</li> <li>・保護者講座や保護者対象の立居振舞等を通して学校と保護者との関連を図る。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観については、多くの保護者に幅広く学校を公開するために、曜日の設定や授業を自由に参観できるように工夫し実施した。</li> <li>・体育祭では、保護者参加種目を設定することで、共に活動する場となった。</li> <li>・保護者講座も、保護者と教員が楽しみながら実施できるよう内容を工夫し、円滑な交流の場として機能した。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観は学年が上がると、参加人数が減少傾向になっている。実際の生徒の学習の様子を見てもらう機会を増やすためにも、今後も継続した体制作りを行っていく。</li> <li>・保護者講座においては、よりニーズの高いものに特化し活性化していく。</li> <li>・次年度も学校開放デーを設けるなど広く公開する体制を整えていく。</li> </ul>



10-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。</li> <li>・教育相談体制を整備し、生徒・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者のニーズを聞き取り、現状把握を行い、内容を精査し反映させる。</li> <li>・学校生活における生徒の様子や現状を、教員と保護者が共有できる場として、保護者会や保護者懇談会を実施する。</li> <li>・三者面談を通じて、直接担任と生徒、保護者が話し合うことで、生徒の抱える問題や保護者の不安に迅速に対応する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関するアンケートを実施し、アンケート結果を踏まえ、各教員の授業見直しやスーパーバイザーと協力した授業改善に取り組むことができた。</li> <li>・学校生活に関するアンケートの実施をしたことで、表面化されていないクラス内の傾向を知ることができ、学級担任のクラス運営に役立てることができた。</li> <li>・保護者懇談会を実施した、管理職が直接保護者と意見交換をすることで、風通しが良くなるような土台作りができた。</li> <li>・保護者会の効果としては、複数の保護者が一堂に会し、直接話をすることができ、家庭間の情報共有がよりスムーズにできている。必要に応じて、学年保護者会を実施することで効果をあげている。</li> <li>・三者面談は、限られた時間内であるため、すべての相談ができるわけではない。必要に応じ、別の日に担任以外にも学年主任やスーパーバイザー、カウンセラーを交えて実施するケースもあった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関するアンケートの内容を精査し、より学力向上やアクティブラーニングにつながる生徒の意見を聞き取り、これまで以上に生徒が主体となり、双方向性と活気のある授業展開の構築を行っていく。</li> <li>・学校生活に関するアンケートを実施したことで、いじめの原因となり得る事象の発見や学級の生徒の思いが気づきやすくなった。しかし、アンケート項目が多いことや生徒のアンケートに対する慣れによって、回答方法が雑になり、正しい実態評価につながるのかといった不安要素もある。そのため、アンケートの質問内容を簡潔化し、効果的な質問へ絞っていく。</li> <li>・保護者懇談会については、懇談会参加者が固定化される傾向もあるので、今後は、より多くの保護者の意見を把握する方法を検討していく。</li> <li>・三者面談においては、生徒、保護者と面談できる時間が限られている。必要に応じて、問題を多く抱えている生徒や家庭においては他日面談日を設けるなどし、柔軟に対応していく。なお面談前には学年会議を行い、情報共有に努めているが、更なる取り組みを行っていく。</li> </ul>

10-④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と学校の良い信頼関係を構築していくために、定期的に情報の伝達や公開を行う。</li> <li>・情報提供により、保護者が学校に関心を持ち、学校理解の一つになるようにする。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園全体の広報誌「学園だより」や、機関誌「緑苑」、進路指導部からの「キャリア・進学だより」、生徒指導部からの「生徒指導部だより」、保健室からの「保健だより」等を通じて、行事予定や生徒の学校での活動の様子、進学、キャリアの情報、生徒指導上で留意すべき事柄等を定期的に様々な形で提供した。</li> <li>・平成28（2016）年度は各学年が「学年だより」を定期的に発行し、生徒の日常生活の様子や学年の担任からのメッセージなどを掲載した。情報共有の場として活用し、大変有意義なものとなった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学年だより」は、各学年がその時々伝えたい情報を提供し、特徴がよく出されていた。今後も継続していくことが保護者との信頼関係を築く基礎となる。掲載する内容としては、保護者が知りたいと考えている情報を選び、また生徒も興味を持って目を通せるものを提供していく。</li> </ul>

10-⑤	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間や校外学習の時間を利用し、鎌倉の自然や文化財に触れる機会を積極的に増やし活動する。</li> <li>・「赤い羽根」等のボランティア活動を通じて地域社会との連携を深める。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習で鎌倉の神社、仏閣、産業等について事前学習し、グループ活動を実施した。</li> <li>・赤い羽根街頭募金等に意欲的に協力し、各クラスの委員を中心に積極的に活動した。また、地域社会との連携の一つとして、児童文化部による「子どもフェスティバル」等の活動も意欲的に実施された。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりいっそうの地域社会との連携を強めるためには、企業や外部の専門家の導入が不可欠になると考えられる。また、生徒の自主的な活動を引き出すための、余裕を持った時間確保を行っていく。</li> <li>・募金の意義や必要性を丁寧に説明し、より自主的な活動につなげていく。</li> </ul>

10-⑥	・教育実習生の受け入れ体制が十分に整っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習期間や取組内容を確立させた上で、事前に十分に学校として指導を行い、自覚をもたせる。</li> <li>・生徒の前では、教員としての自覚をもち、自発的に行動できるよう担当教諭を中心に指導する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前に、事前の面談を行い、学生の自覚と意思を確認して取り組ませることができた。特に受け入れ前には、次長から実習に向かう心構えを説明し、実習に臨ませている。</li> <li>・教科指導と学級指導だけでなく、生徒への接し方や実習日誌の記入についても、それぞれの担当教員が、適切に指導しているため、実習期間で学生に大きな成長が見られた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の説明で、実習の重要さと、それを乗り越えるだけの努力が必要であることを、十分に学生に説明していく。</li> <li>・実習生を受け入れる人数については、担当教員1名につき実習生1名がきめ細かい指導をするための理想であるため、実習生の指導可能教員数を超える人数を受け入れることに対する対応については、引き続き今後の課題になる。</li> </ul>

## 11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動についての説明会を実施したり、学校案内を配付したり、ホームページを活用するなど、学校に関する様々な情報が、多様な媒体を用いて分かり易く、かつ適切な分量で提供されているか。</li> <li>・ホームページに校長名、学校の所在地、連絡先、学級数、生徒数、教育課程などの基本的な情報が提供され、情報が定期的に更新されているか。</li> <li>・生徒等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な時期に学校説明会を実施し、校外説明会に参加することで、受験生と保護者が必要とする情報を伝える。</li> <li>・説明会等で配付する資料の内容は適切で十分であるか配慮する。</li> <li>・ホームページへの基本的な情報の提供と更新を適切に行う。</li> <li>・生徒等の個人情報の保護に十分配慮する。</li> <li>・学習塾に対し、本校の教育活動について適切に情報提供を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに校内で行う入試イベントの時期、テーマ、内容を決めて実施した。その際、校外説明会を活用してイベントの告知を行い、受験生・保護者の誘導につなげることができた。</li> <li>・各回で配付する資料については、事前に検討を重ね作成した。受験生・保護者にとって必要な情報（本校の教育活動の内容、入試関連データ等）を掲載し、理解を得られた。</li> <li>・ホームページについては、年度初めに基本的な情報を掲載し、以後は学校行事や日々の教育活動の様子を「ニュース&amp;トピックス」という形で随時、発信した。特に、入試イベントの事前に、イベントの概要を掲載することで、受験生の誘導を行った。さらに事後にはイベントの様子を掲載し、くり返し来校する受験生を増やすことに努めた。</li> <li>・ホームページへ掲載する際、または学校案内等の印刷物を発行する際には、生徒の個人情報保護を念頭に、事前に生徒保護者に「承諾書」を配付し、理解・承認を得た後に、円滑に進められた。</li> <li>・入試広報部の担当教員だけでなく、計画的に、中・高等部の全教員による中学校訪問（9月の解禁日以降1回）、塾訪問（年2回）を実施し、中学校教員及び塾の講師に本校の教育活動について情報発信ができた。また、10月下旬に中学校訪問を追加し、受験者数・入学者数の増加につなげることができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生と保護者、中学校・塾の進路指導担当者が、本校の教育活動に対する理解を深め、出願・受験・入学へとつなげていくため、継続して、ダイレクトメール送付や公立中学校・塾訪問による告知・案内を行い、校外説明や学校説明会に誘導していくという流れを作っていく。</li> <li>・ホームページへの掲載内容について、教科・学年・部活動と分け、定期的に発信していけるよう、ニュース更新の担当者を明確にして対応していく。</li> <li>・中学校、塾訪問についての計画（時期・発信内容等）を立て、継続して実施していく。</li> </ul>

11-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部の募集力向上に向けた改革における事務支援が適切に行われているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部入試・広報担当教員の業務補佐と支援の充実を図る。</li> <li>・募集人員充足の向け、①学校案内制作、②ホームページ制作、③学校説明会運営、④広報媒体等への交渉、⑤他校入試・広報関連の情報収集、⑥学習塾訪問頻度向上、⑦校外進学フェア運営等の支援活動等を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内制作の支援を行った。学校案内制作会社へのアドバイスと、高等部入試・広報担当教員のパイプ役として制作支援を行った。同時に制作費用の削減に向けた交渉を実施した。パンフレットとしての質の向上を図った。</li> <li>・ホームページの「ニュース&amp;トピックス」への記事掲載支援を行った。高等部の教育活動、生徒の学園生活等を閲覧者に対してタイムリーに、かつわかりやすく提供した。</li> <li>・広報ツールの制作支援を行った。チラシ・交通広告等の制作費、及び媒体使用料等の削減に向けた交渉を積極的に行った。これにより広報予算の有効活用が図られ、告知頻度の向上につなげた。</li> <li>・塾訪問頻度の向上を図った。高等部長、並びに担当教員と連動した学習塾に対する訪問頻度を向上した。告知活動の充実を図り、今後の募集力増強に寄与した。</li> <li>・接続教育推進プロジェクト会議を開催した。幼稚部から高等部までの現状と課題を共有し、各部の戦略的な募集力向上を図った。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部の募集定員の充足に向け、入試・広報担当教員の支援活動の充実を図る。</li> <li>・計画的な募集活動の補佐に加え、教育活動を効果的に伝える学校説明会の運営の支援等を行い、志願者数の増加を図る。</li> <li>・学習塾に対する告知の増強を図る。塾講師へ高等部の優位性を強く発信する。同様に、中学校訪問時における高等部認知度の向上を図る。</li> </ul>

## 12. 教育環境整備

12-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽室、美術・工芸室、書道室、情報処理演習室、調理室、被服室、第1・第2理科室など各施設を有効活用する。</li> <li>高等部各教室や特別教室に設置された電子黒板を有効活用する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽室、美術・工芸室、書道室は各教科の授業で活用された。情報処理演習室は授業のほか、総合的な学習の時間などにも活用された。また2つある音楽室は、合唱の練習などの際には、パート別に分かれ2カ所とも有効に活用された。</li> <li>技術家庭科では、調理室、被服室とも実習等で、頻繁に活用された。</li> <li>理科室も環境整備が整ったことにより使用しやすくなり、実験などに多用された。第2理科室のドラフトチャンバーも実験の際に活用されていた。</li> <li>教室の電子黒板は、どの教科においても活用され、動画や画像、ホームページなどの視聴覚教材を使用する際に活用された。また、パワーポイントを用いた授業や生徒の発表の際にも有効であった。平成28（2016）年度より高等部各教室にも電子黒板が設置され、より使用しやすい環境になった。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設面では非常に充実しており、各教科や総合的な学習の時間などで有効な活用がなされている。教科を横断した活用なども模索することで、より有効な活用を行っていく。</li> <li>電子黒板でを使用したコンテンツを、教科内だけでなく、学校全体で共有し、より充実したものにしていく。</li> </ul>

12-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安全を確保する</li> <li>・施設・設備の機能を維持する。</li> <li>・より快適な環境で生徒が学校生活を送れるよう環境整備を行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。</li> <li>・本館東西階段及び東館ピロティにおいてアスベストが使用されていることが判明したため、直ちに除去工事を行った。</li> <li>・前年度に北館1階の改修工事を行ったが、平成28（2016）年度に改めて床改修工事を行った。</li> <li>・本館及び東館の外壁等において、亀裂等がみられ破片落下等を事前に防止するため、補修及び補強工事を行った。</li> <li>・北館各教室にプロジェクターが設置されたが、同時に使用時の教室内照度・採光について、より良い環境を整備するため全教室に新たに遮光カーテンを設置した。</li> <li>・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検等業者への委託による環境整備・安全確保等も行っている。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。</li> <li>・建物診断の結果から今後の保守計画を立て、実施する。</li> <li>・平成28（2016）年度は他の事業を優先した関係で本館等において空調機の更新が計画どおり進まなかった。今後は計画通り進むよう実行する。</li> <li>・北館においてはトイレの洋式化は実施済みであるが、他の棟においては未実施箇所が多いため、今後計画的に改修を進めていく。</li> <li>・委託業務の内容等が実状に合わせたものになるよう見直しを図る。</li> </ul>



12-③	・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な教育活動の目的に合う場所や教材・教具・図書などの教育環境を整備する。</li> <li>・パソコンや情報機器のマルチメディア性を生かし、教育活動の情報化を推進する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習室やマルチメディアラウンジの電子黒板や、情報処理室、マルチメディアラウンジのパソコンも有効に活用されており、図書館では蔵書数や映像教材の更なる充実を図っている。</li> <li>・各教室に設置された電子黒板は、前年度までの英語会話の授業や理科の授業だけでなく、ほぼ全教科において活用されるようになった。自習室については、進路指導部と高等部3年学年団が担当し活用している。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Kamakura Beyond Project」などの活動を考えると、情報処理室とマルチメディアラウンジだけではパソコンの台数が不足している。今後は、計画的にパソコンを増やしていくことを検討している。</li> <li>・教育活動でのパソコンや情報機器を利用した情報化は進んでいるが、利用方法は更なる工夫や開発を検討する。また、それらを共有するためのシステムづくりを進めていく。</li> </ul>

## 13. 事務支援体制

13-①	・高等部の教育活動における支援が適切に行われているか。
取組目標	・日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。</li> <li>・業者支払いの勘定伝票や預り金についての帳票を初等・中等教育支援室で作成することで、事務処理の合理化・厳格化に貢献した。校友会費処理についても、経理部の指導のもと、改善を進めた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も外部との対応に関して、引き続き適切かつ丁寧な対応を心掛ける。</li> <li>・預り金の厳格化については、経理部や総務部、各部と連携し、引き続き対応を図っていく。</li> </ul>

## 14. 自己点検・評価

14-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価が年に1回以上定期的実施されているか。</li> <li>・全教職員が評価に関与しているか。</li> </ul>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末において当該年度に実施した教育内容について、振り返りを行うことで、次年度に生かせるように自己点検・評価を実施する。</li> <li>・自己点検・評価報告書の作成にあたっては、分掌主任を中心に中・高等部の全教職員で行う。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各点検項目にしたがって分掌主任や教科主任を中心に、年度に実施したすべての教育内容について細部にわたりその内容や成果、達成状況を点検することで、次年度の改善につなげることを目指した。</li> <li>・報告書の作成においては部長・次長と分掌主任を中心に教科主任や学年主任から指示する形で、全教職員が振り返りをし、次年度の工夫や改善に生かすことができるようにした。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者には年度末に執筆を依頼し、次年度の初めまでを期限としているが、成績処理と残務整理に加え、次年度への準備も入る時期であるため、点検項目などが年度の始めに決定し、担当者が実施済のものから点検・執筆していく。</li> </ul>

14-②	・自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・評価の結果を受けて、改善すべき点は次年度に生かす。</li> <li>・取組内容に関して成果が表れているものについては、さらに工夫を凝らして次年度に実施する。</li> </ul>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果に結びついていない教育内容については十分な検討を重ねた上で、代替策を講じることにつながった。</li> <li>・教育内容について細部にわたりその内容の一つ一つを点検することで、明らかに次年度の教育活動に生かすことができた。</li> </ul>
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容のなかにはすぐには結果に結びつかないものがあるため、引き続き次年度も実施すべき教育内容か否かは十分吟味を重ねていく。</li> </ul>